

広島版「学びの変革」アクション・プラン 総合的な学習の時間におけるコンピテンシーの育成を目指した指導 と評価の在り方（二年次）

— 教科等との関連を生かした「課題発見・解決学習」を通して —

【研究者】

企画部 主任指導主事 坂本 伸宏
指導主事 福田 陽子

【研究指導者】 広島大学大学院教育学研究科 教授 朝倉 淳

【研究協力校】

呉市立原小学校 呉市立警固屋小学校 江田島市立大古小学校
呉市立警固屋中学校 大竹市立小方中学校

研究の要約

本研究は、広島版「学びの変革」アクション・プランが推進する、総合的な学習の時間を中心として児童生徒の主体的な学びを促進する「課題発見・解決学習」を通して、コンピテンシーの育成を目指す指導と評価の在り方についての研究である。

研究の方法としては、平成27年度研究事業の成果である「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る留意点を基にして、研究協力校における取組を進め、その上で総合的な学習の時間と教科等との関連を生かした授業改善の方向性を示す。具体的には、まず、理論研修の中で、各学校のコンピテンシーの設定の手順や児童生徒の実態把握、教材研究の手法を提示する。次に、研究協力校において年間指導計画及び単元計画のシートを作成し、教科等との関連を生かした授業実践を行う。その後、平成27年度の研究で明らかとなった「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る留意点に基づくアンケート調査を行い、その分析・考察を通して、教科等との関連を生かしたコンピテンシーの育成を目指す指導と評価についての検証を行う。

本研究の成果と課題を明らかにし、平成30年度の広島版「学びの変革」アクション・プランの全県展開に向け、県内各校における総合的な学習の時間の「課題発見・解決学習」の指導と評価に係る授業改善の実現を目指すガイドブックを作成する。

**キーワード：総合的な学習の時間 広島版「学びの変革」アクション・プラン コンピテンシー
指導と評価 教科等との関連 ガイドブック**

目次

I	問題の所在	23
II	指導と評価に係る課題	24
III	二年次の研究の基本的な考え方	25
IV	「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る実際	31
V	「課題発見・解決学習」の指導と評価の教科等との関連に係る授業実践	37
VI	分析と考察	46
VII	研究のまとめ	48
	おわりに	49

I 問題の所在

広島県立教育センターでは、これまでも総合的な学習の時間について継続的に研究を進めてきた。平成25・26年度の研究では、総合的な学習の時間の「単元改善シート」を開発し、県内の学校への普及に努めた結果、総合的な学習の時間における指導と評価の改善を推進し、専門研修講座等の受講者アンケートから、その有効性を検証することができた。

平成27年度から広島版「学びの変革」アクション・プラン（以下、アクション・プランとする。）が実施され、「課題発見・解決学習」の平成30年度全県展開に向けた各学校の授業改善の取組が進む

中、総合的な学習の時間における児童生徒のコンピテンシーの育成を目指した指導と評価の在り方を明らかにすることが求められている。

平成27年度の研究（以下、一年次とする。）では、総合的な学習の時間を中心とした主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を通して、コンピテンシーの育成を目指す指導と評価の在り方について理論の構築を行った。また、「学びの変革」パイロット校事業におけるパイロット教員を対象とした実態調査アンケートを実施し、分析の結果から総合的な学習の時間における指導と評価に係る課題を見いだすことができた。

本研究では、一年次に明らかになった課題を基に、総合的な学習の時間において、教科等との関連を生かした「課題発見・解決学習」を通して、コンピテンシーの育成を目指す指導と評価の在り方を示すとともに、研究協力校が授業改善に取り組んだ事例を紹介する。また、研究協力校の取組の成果と課題を生かし、総合的な学習の時間における「課題発見・解決学習」の指導と評価に係る授業改善の実現を目指すガイドブックを作成する。

Ⅱ 指導と評価に係る課題

1 一年次に明らかになった課題等

パイロット教員対象実態調査アンケートから明らかになった指導と評価に関する課題及び指導と評価の改善に係る留意点を整理する。

(1) 指導の課題について

多くの学校が学習内容や学習活動の設定の仕方に課題を感じていることが分かった。このことは、児童生徒の興味・関心や学習スキルについての実態把握の項目や価値ある課題の設定や学習内容となるよう十分な教材研究や共通理解を図っているといった項目の肯定率が低いことともつながっている。

一方で、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」の工夫については、平成25年度研究事業で行った実態調査と比較すると、多様な指導の工夫が見られるなど、改善が進んでいることがうかがえた。しかし、「児童生徒の思考の流れを考慮した主体的な学びにつながる学習の過程や内容になっている。」や「児童生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりになっている。」の項目の肯定率が低く、児童生徒の実態を考慮した「課題の設定」のしかけや、児童生徒の思考を深める「整理・分析」の手立が十分に行われていないと考えられる。

(2) 評価の課題について

「いつ、どのような方法で見取るのか、単元計画に評価する場や評価方法について設定している。」の項目に課題がみられることから、多くの学校が学習評価の設定の仕方について課題を感じていることが分かる。また、「評価の見直しをしている。」の項目に対する肯定率が極めて低く、各学校で評価の工夫が十分に行われていないことが明らかになった。

(3) アンケート分析を踏まえた指導と評価の改善に係る留意点

これらの課題を踏まえ、一年次には児童生徒のコンピテンシーの育成を目指す指導と評価の改善に係る留意点を、次に示す9項目にまとめた。

ア 実態把握について

- ・多様な方法を活用した児童生徒の実態把握を行い、児童生徒自身がメタ認知できるようにする。

イ 全体計画の作成について

- ・複数の教職員で情報共有し、児童生徒の実態や学校を取り巻く地域の実態や社会問題に基づいた学習内容や学習活動を設定する。

ウ コンピテンシーの設定について

- ・目指す児童生徒の姿や児童生徒の実態を基にしてコンピテンシーを設定し、定義を明確にする。

エ 年間指導計画について

- ・総合的な学習の時間と各教科等で育成しようとするコンピテンシーや学習内容の関連が意識できるようにする。

オ 単元計画について

- ・児童生徒の実態や教材研究を基にした価値ある課題や学習内容を設定する。
- ・児童生徒の思考の流れを考慮した主体的な学びにつながる学習過程や内容を設定する。
- ・コンピテンシーを育成する学習活動の場を設定する。
- ・児童生徒同士が対話し、思考を広げ深める場を設定する。
- ・実社会とつながる「実行」や「振り返り」を設定する。

カ 評価計画について

- ・児童生徒の実態を踏まえ、複数の教員による評価規準、評価基準の設定を行う。

キ 評価方法について

- ・コンピテンシーに応じた評価や多様な評価方法を設定する。

ク 評価の工夫について

- ・児童生徒一人一人の変容を見取るための評価を

工夫する。

- ・評価の見直しを行う。

ケ 「課題発見・解決学習」について

- ・主体的な学びにつながる「課題発見・解決学習」の各過程における指導方法を工夫する。
- ・「課題の設定」に対する動機付けを工夫する。
- ・主体的な学びにつながる無自覚な長期記憶を自覚するための手立てを行う。

2 教職員対象研修事業により把握した課題

当教育センターで実施している総合的な学習の時間に係る教職員対象研修講座における指導と評価について把握した課題を次に示す。

(1) 実態把握について

- ・児童生徒一人一人の実態を丁寧に把握することに難しさを感じている。

(2) コンピテンシーの設定について

- ・コンピテンシーの定義が不明確であったり、教職員間での共有が不十分であったりする。
- ・設定したコンピテンシーの数が多く、全てのコンピテンシーが十分に評価されていない。

(3) 年間指導計画について

- ・教科等との関連を生かした年間指導計画が作成されている学校が少ない。

(4) 単元計画について

- ・学習者自身の関心や疑問から課題を設定する、学習者基点の学習になっていない。
- ・実社会とのつながりや学習者自身による実社会へのアプローチがされていない。

(5) 評価計画について

- ・コンピテンシーを育成する場の設定や評価計画が設定されていない。

(6) 学習指導の工夫について

- ・学級全体での話合いが教師対児童生徒の対一構造となり、児童生徒の学び合いになっていない。
- ・小グループでの話合いが発表による交流に留まり、学び合いになっていない。
- ・児童生徒の実態把握を考慮せず、思考過程との整合性のない思考ツールを使用する例が見られる。

Ⅲ 二年次の研究の基本的な考え方

本研究では、一年次の研究成果に、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」及び「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年、以下「答申」とする。）の趣

旨等を加え、一年次に明らかにした「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る9項目の留意点の内容を踏まえ、研究協力校における実践を通して指導と評価の改善策をまとめ、ガイドブックを提案する。

1 コンピテンシーの設定について

アクション・プランでは、「学び続ける」ためのコンピテンシーの例として、「知識」「スキル」「意欲・態度」「価値観・倫理観」を提示し、これら四つのコンピテンシーの好循環が必要であるとしている。

また、「答申」では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を資質・能力の三つの柱として提示しているが、これらは表1に示すアクション・プランにおける三つの資質・能力や総合的な学習の時間の資質や能力と対応していることが分かる。

表1 コンピテンシー（資質・能力）の対応について

「答申」	アクション・プラン	総合的な学習の時間
資質・能力の三つの柱	学び続けるためのコンピテンシー	育てようとする資質や能力及び態度
知識・技能	知識・情報	知識・技能
思考力・判断力・表現力等	スキル	学習方法に関すること
学びに向かう力・人間性等	意欲・態度 価値観・倫理観	自分自身に関すること 他者や社会とのかかわりに関すること

2 「課題発見・解決学習」について

アクション・プランにおける主体的な学びを促進する「課題発見・解決学習」では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・創造・表現」「実行」「振り返り」の六つのプロセスを設定している。その中で「課題の設定」については、児童生徒が自ら課題意識をもち、それが連続発展することが大切であるとされ、教師は児童生徒の興味・関心等を事前に把握し、児童生徒の経験や既存の知識等との「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせたりする工夫が必要であると示されている。

しかし、「課題発見・解決学習」は、総合的な学習の時間に限らず、各教科等を対象にしていることから、資質・能力の育成を目的として、目標・内容ともに各学校で定める総合的な学習の時間と、学習

指導要領に目標・内容を示す各教科等とは、必然的に「課題の設定」における指導に違いが生まれる。

鈴木敏江（2012）は、二つのPBL学習として、「問題解決学習（Problem Based Learning）」と「プロジェクト学習（Project Based Learning）」について次のように述べている。

問題解決学習（Problem Based Learning）は、学習者が与えられた課題を動機付けとする学習方法であり、問題状況を利用して、知る必要がある学習活動を行う教師指導型学習である。また、プロジェクト学習（Project Based Learning）は、意志ある学びを理念としたプロジェクト手法による学習方法であり、ビジョンとゴールを明確にして、学習者自ら貢献性のある成果をゴールとして向かう学習である。このように、問題解決学習は、問題を解決することが最終ゴールであるが、プロジェクト学習は、問題を解決することが最終ゴールではなく、ビジョンを実現することがゴールであると述べている。

「課題発見・解決学習」では、総合的な学習の時間や教科等において、児童生徒に特定の課題を提示する場合は、問題解決学習の導入時の手法が生かされる。問題解決学習では、導入時に、教師から問題提示や動機付けがなされ、児童生徒は問題状況の中から、自らの課題を設定する学習となる。これに対し、プロジェクト学習は、児童生徒自らが、実社会における問題状況からビジョンを見いだし、ゴールを設定することにより学習を進める学習であると考えられる。

これらのことから、各学校の状況に応じて学習方法を設定し、導入の工夫や児童生徒自身が課題設定を行うための指導が必要であると考えられる。

3 教科等との関連について

「答申」では、総合的な学習の時間と教科等の関連について、次のように述べている。

- ・各教科等で育まれた力を、当該教科等における文脈以外の、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力に更に育てたり、教科等横断的に育む資質・能力の育成につなげたりしていくためには、学んだことを、教科等の枠を越えて活用していく場面が必要となり、そうした学びを実現する教育課程全体の枠組みが必要になる。
- ・各教科等間の内容事項についての相互の関連付けや教科等横断的な学びを行う総合的な学習の時間や特別活動、高等学校の専門学科における課題研究の設定などが重要な枠組みとなる。

このことを受け、各教科等で育まれた力を当該教科等における文脈以外の実社会の場面で活用できる汎用的な能力に育てるために、総合的な学習の時間における年間指導計画を基に、総合的な学習の時間と各教科等の内容事項や育成する資質・能力を関連させることが重要であると考えられる。

本研究では、教科等との関連を図る手立てとして、総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の構造化を図る。

4 ガイドブックの作成について

(1) 目的

アクション・プランの平成30年度全県展開に向け、ガイドブックに「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る留意点を示し、各学校の校内研修等で用いることにより、各学校の自律的な授業改善を進めることを目的とする。

(2) ガイドブック作成の留意点

一年次に明らかにした9項目の留意点と専門研修講座等により把握した六つの課題を基に、「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る留意点を6項目に整理した。この6項目の留意点をガイドブックでは「ステップ1」から「ステップ6」として示した。以下に「ステップ1」から「ステップ6」の内容を示す。

ア ステップ1「児童生徒の実態把握について」

児童生徒の資質・能力の客観的な実態把握としては、各学校で定める定義に沿ったアンケート調査や全国学力・学習状況調査、本県で実施している「基礎・基本」定着状況調査等の活用が考えられる。「課題発見・解決学習」については、表2に示す「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒対象の質問紙項目が参考になる。

また、ウェビングなどの思考ツールを活用し、児童生徒のテーマに関する興味・関心や学習内容に関する児童生徒の無意識な長期記憶を可視化し、児童生徒の実態を把握するとともに、児童生徒自身がメタ認知できるようにする。

児童生徒の日常知については、学校生活全体を通じた個々の見取りを行うなどの実態把握をする必要がある。

このように、児童生徒の実態把握は、データを基にした客観的な分析や複数の教師による見取りなど多様な実態把握の方法が必要であると考えられる。教師は、これらを基に、単元計画や評価規準及び評価基準の設定を行う。

表2 「基礎・基本」定着状況調査における「課題発見・解決学習」に関する質問紙項目

領域	内容
課題の設定	○授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思います。 ○授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないかと予想しています。
情報の収集	○授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。 ○授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるかを考えています。
整理分析	○授業では、調べたことなどを図、グラフ、表などにまとめています。 ○授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。
まとめ・創造・表現	○授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。 ○授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。
実行	○授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。
振り返り	○学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」「学習の方法でうまくいったことや失敗したことの原因」を考えています。 ○学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。
その他	○ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。 ○授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの学習活動をしています。
総合的な学習の時間	○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。

イ ステップ2「コンピテンシーの設定について」

コンピテンシーの設定に当たっては、まず、各学校における目指す児童生徒の姿である「学校教育目標」を共有し、その後、教職員全員が各校種における最高学年時の児童生徒の目指す姿の具体について検討を行うことが重要である。それらを基に、育成するコンピテンシーを選択し、定義を文章化することで共有を図る。次に、教職員対象研修事業における、コンピテンシーの設定に係るワークショップの具体について図1に示す。

はじめに、ブレインライティングの手法を活用し、学校教育目標を基に所属校の最高学年の目指す姿を想定し、ワークシートの①の欄に各自の考えを書き込む。次に、グループでワークシートを交換し、それぞれが②の欄に書き込みを行う。その際、前者①の記述内容との重なりを留意して、目指す児童生徒の姿を書き込む。これを繰り返し行うことにより、多面的多角的に児童生徒の具体的な姿を想定することができる。また、理由を書き込むことで、コンピテンシーの定義の設定に役立てることができる。

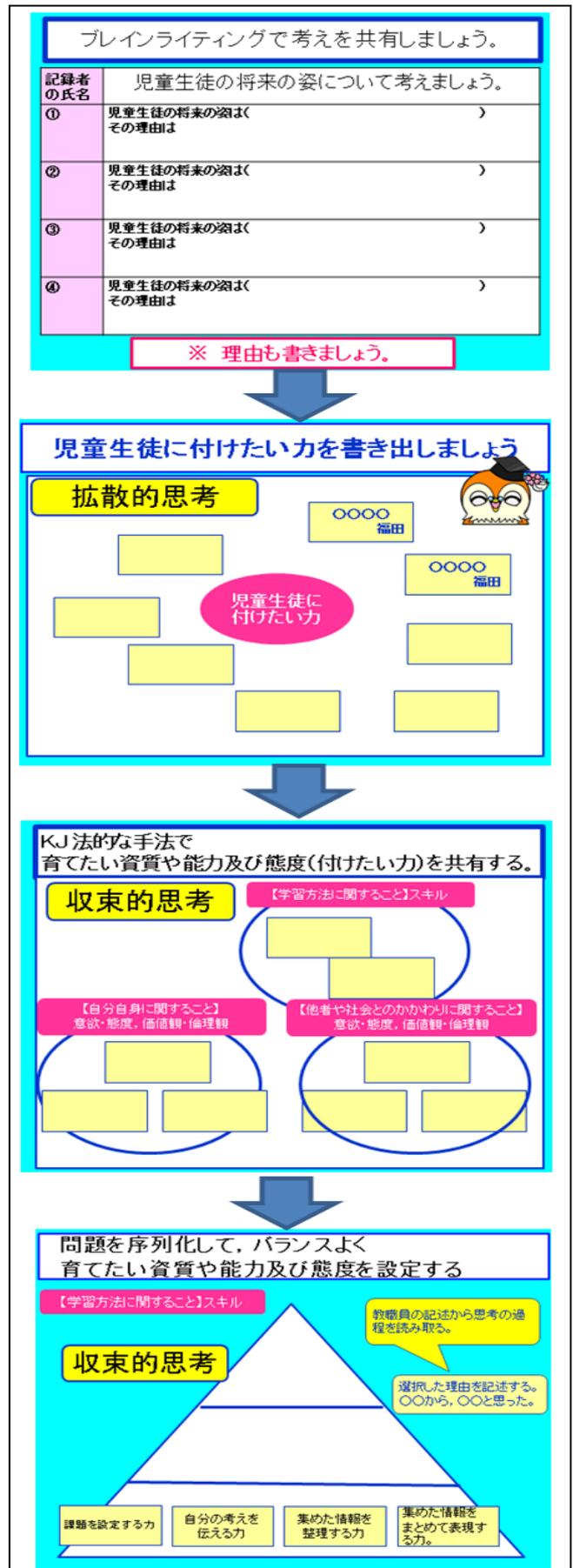


図1 コンピテンシーの設定の手順

そして、ワークシートを①の記述者に戻し、各自が他者の考えを読み取る。その後、自校の児童生徒を想定しながら目指す児童生徒に必要なコンピテンシーについて付箋に書き出す。付箋を基に、KJ法的な手法を活用しグルーピングを行いながら交流を行う。グルーピングの視点は、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関する事等について、表1に示す枠組みに応じてバランスよく設定する。

各学校のこれまでの取組から、多くのコンピテンシーを設定したために、指導と評価が十分に行われていないという課題がある。このことから、コンピテンシーの絞り込みが必要であると考え。ここでは、ピラミッドチャートを活用し、教職員協働で理由付けを行いながらコンピテンシーの選択を行う。この理由付けが定義の根拠となるため、記録として残すことが重要である。

また、コンピテンシーを選択する際には、児童生徒の客観的な実態把握が必要になる。ステップ1で示した「基礎・基本」定着状況調査の質問紙の結果やこれまで学校で設定しているコンピテンシーについてのアンケート調査等のデータを参考とする。

さらに、教職員全員で児童生徒の日常的な見取りによる実態を交流しながら、どのようなコンピテンシーが所属校の児童生徒に必要であるか検討を行う。

これまでの各校の取組の中で、コンピテンシーの評価規準や評価基準を設定する際、教職員間でコンピテンシーの定義の共有がされていないことが課題として挙げられている。このことから、コンピテンシーの定義を文章で共有することが重要である。さらに、これらの定義を児童生徒と共有し、単元や授業の導入時に児童生徒に意識付けることや児童生徒の自己評価に生かすことで、主体的な学びへとつなげることができる。これらは、総合的な学習の時間のみではなく、教育活動全体において日常的に意識付けできるような手立てが必要であると考え。

ウ ステップ3「年間指導計画について」

カリキュラム・マネジメントを具現化するためには、総合的な学習の時間と教科等の関連を生かした年間指導計画が必要になる。

田村知子(2014)は、カリキュラム・マネジメントについて、各学校における教育目標・内容・方法をカリキュラム(全体計画、年間指導計画、時間割、単元指導計画、週案、本時指導計画等)として組織し、一連の活動をPDCAマネジメントサイクルに必要な人、モノ、カネ、組織、時間、情報の諸条件

を整備していくことが基本であると述べている。

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編では、総合的な学習の時間と各教科等の単元を矢印でつなぐ年間指導計画を例示しているが、コンピテンシーの関連については示していない。また、矢印が多くなることにより関連の把握が難しくなる。

このことから、本研究では、総合的な学習の時間の単元を中心とし、教科等との関連を図りながらコンピテンシーの育成や学習内容、学習スキルの習得を教師が把握するためのツールとして年間指導計画を活用することを目的として改善を図った。次頁図2の様式を活用する。

これは、学校で設定したコンピテンシーを軸とし、総合的な学習の時間と各教科等で育成するコンピテンシーの関連が明確になるよう、単元名と育成するコンピテンシーを明示できるものとなっている。項目として、①月②学校行事③単元名④主な内容⑤学校で定めるコンピテンシー⑥各教科等との関連(単元名、関連するコンピテンシー)を明記している。

これまで、多くの学校で年間指導計画が特定の教師により作成されてきたことや児童生徒の実態把握を基に、テーマに関する教材研究を通じた学習内容の設定や教科等との関連を生かしたコンピテンシーの育成につながる指導が行われていないという課題があった。このことから、年間指導計画の作成を複数の教師により協働で行うことが重要であると考え。総合的な学習の時間における協働的な教材研究の進め方の例を次に述べる。

はじめに、先に述べたステップ1における「児童生徒の実態把握」を行った後、テーマに関する価値ある課題を設定する。ここでは、「地域や学校の特色に応じた課題」を例として示す。

校内研修を通して、教職員全員で学校や地域を取り巻く「ひと・もの・こと」についてブラッシュアップし、次頁図3に示すテーマに関する学習対象、学習事項を付箋に書き出す。書き出しに当たって、実社会における課題や教科等の学習内容や学習スキルとの関連、地域の人材や行政関係者・専門家等の外部講師等を考慮することが重要である。これらに関連させることにより、次頁図4に示すテーマに関する学習の構造化を図る。学習内容(学習対象、学習事項)を設定する際には、学年に応じた発達段階や教科等との関連、同じテーマについて複数の学年で扱う場合は、系統性について考慮する必要がある。このように、校内研修の設定は、学年間の交流や全教職員の共有を行う上で有効である。

様式イメージ		平成 27 年度 資質・能力の育成に係る年間指導計画 (第 5 学年)												
		表の上には、学校で設定した資質・能力を書いています。												
		育てようとする資質・能力【知識】 【スキル】 ①問題解決能力 ②知識・情報活用能力 ③読解力【態度・態度】 ④チャレンジ精神 ⑤協働性 ⑥読解力【態度・態度】 ⑦自己理解 ⑧土壌												
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
行事		入学式・始業式・遠足	運動会	プール開き	野外活動			学習発表会	公開研究会			ありがとう集会	卒業式・修了式	
総合的な学習の時間	単元名	地域の歴史を見つめて「河石違言物語」			私たちの町の環境について考えよう！われら町の調査隊				もっと住みよい町にするためにみんなでチャレンジエコタウンづくり					
	学習過程	課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、振り返り			課題の設定、情報の収集、整理・分析、実行、まとめ・創造・表現、振り返り				課題の設定、整理・分析、実行、振り返り					
	主な内容	私達の町にはどんな人がいたんだろう。地域の偉人の人生を様々な資料を活用して調べ、広く地域の方に知ってもらうための活動を考えよう			私たちの町の環境についているいるな人に聞いてみよう。どんな問題があるのか分析しよう。町の環境(生き物、ゴミ、水・空気・土壌の汚れ、がけ崩れや水害、食害)について知らせよう				私たちにできることを考えよう。町の環境を良くするために自分たちができることを考えてみよう。町の人にとって何が大切なのか聞いてみよう。					
	知識													
スキル				①、②、③										
態度・態度				④、⑤										
読解力				⑦、⑧										
育てようとする資質・能力と各教科との関連	国語	「図書館へ行くこと」② 「一つの言葉から」③	「筆者の考えをまとめて伝え合おう」①② 「動物の体と気候」①②③ 「意見と理由を聞き取ろう」②	「書き手の意図を考えながら新聞を読もう」②	「立場を決めて討論しよう」②③⑥			「詩を味わおう」③ 「資料を生かして考えたことを書こう」②	「町の幸福論」 〇〇のわ！〇〇市編！ ②③⑧	「和の文化について調べよう」 ②⑤⑥		「五・七・五で表そう」③ 「伝えよう委員会活動」③	「私たちがメディアとのかかわりについて考えよう」 ①②	「私の文章見本帳を作ろう」 ③⑦
	社会	育てようとする資質や能力のうち、教科等の特性を生かして育成するものを書いています。				「課題発見・解決学習」を行う単元は太枠で囲っています。								
	算数	「直方体と立方体の体積」① 「変わり方を調べよう」①	「算数おもしろ旅行」	「小数のかけ算」「小数のわり算」 「どんな計算になるのかな」「合同な図形」 「ごみの減量と二酸化炭素の量」①②			「偶数と奇数」「倍数と約数」 「分数と小数」 「整数の関係」	「きまりを見つけて」① 「分数のたし算とひき算」	「単位量当たりの大きさ」①	「図形の角」 「四角形と三角形の面積」	「百分率とグラフ」②	「正多角形と円周の長さ」 「分数のかけ算とわり算」		「角柱と円柱」
	理科													
	家庭													
	体育													
	音楽													
	図画工作													
	道徳													
	特別活動													

図 2 育成しようとするコンピテンシーの関連を示す年間指導計画

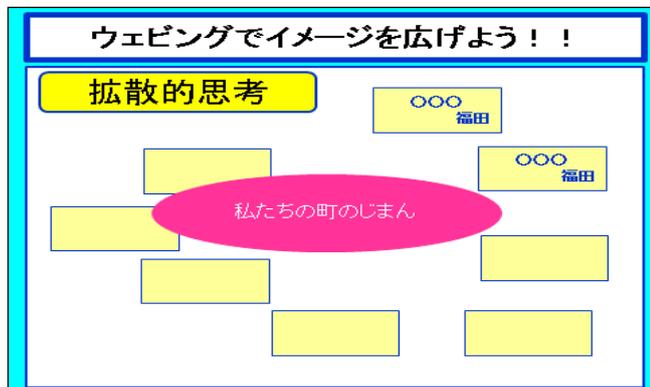


図 3 テーマに関する学習対象及び学習事項

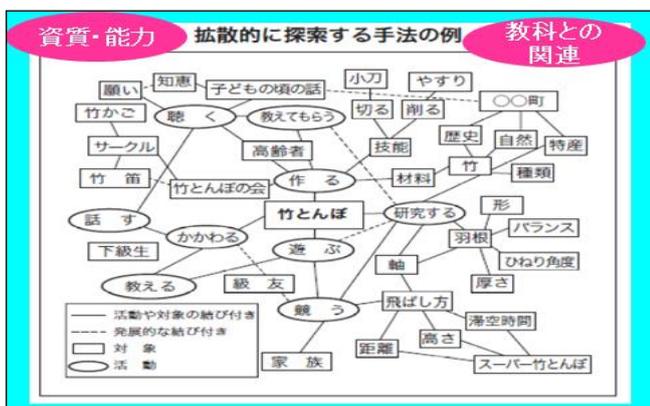


図 4 テーマに関する学習の構造化

当センター実施のサテライト研修では、小中合同研修を行い、中学校区における共有を図る上で有効であった。

その後、各学年でステップ 4 における次頁図 5 に示す単元計画作成シートを活用した総合的な学習の時間の単元計画を立てる。

年間指導計画に総合的な学習の時間の単元計画を明記した後、各教科等の年間指導計画を記入し、コンピテンシーと学習内容との関連を図る。この際、児童生徒の主体的な学びにつなげるためには、児童生徒の実態（興味関心や既習事項、学習スキルの習熟度等）を考慮し、教科等の単元の入替えや総合的な学習の時間の単元計画の見直しを行うことが重要になる。

平成 27 年度パイロット校事業では、総合的な学習の時間の単元計画と各教科等の関連する単元のみ記入した。しかし、各教科等の単元全体を把握した上で単元の入替えを行うことや年度当初意識されていない学習内容があり、関連付けがされていない等の課題が見られた。さらに、中学校では、担当教科以外の学習内容を把握する上でも、各教科等の年間指導計画を入れ込むことが重要であると考えられる。

このように、図2に示す年間指導計画は、作成段階で、児童生徒の実態把握を基に、教材研究を全教職員協働で行うことで深まりや共有を図ることができる。また、総合的な学習の時間の単元と教科等の関連の可視化や、学校を取り巻く様々な人・モノ・こととの関連を生かすカリキュラム・マネジメントの具現化を図る上で重要であると考え。また、教材研究の進め方等は、OJTへとつながる。

エ ステップ4「単元計画について」

平成27年度の研修講座で活用した「単元計画作成シート」は、①主な学習活動（探究のプロセス及び学習活動）②評価規準（評価方法）③教科との関連（教科名）を記述するものであった。

しかし、育成するコンピテンシーとの関連が意識しにくいことや、探究のプロセスが固定化されているとの誤解を招くなどの課題があった。探究のプロセスは、固定されているものではなく、単元全体のサイクルや1単位時間ごとのサイクルがあり、過程の順序は必要に応じて変更されることや繰り返しスパイラルに設定されることの確認が必要である。

単元名			
単元目標			
育てようとする資質・能力・態度			
学習領域			
学習事項			
主な学習活動		評価規準及び評価方法	教科との関連 (内容・スキル)
探究のプロセス			

図5 単元計画作成シート（改訂版）

そこで、図5に示す改訂版の単元計画作成シートでは、探究のプロセスを空欄とし、育てようとする資質や能力及び態度の定義を文章記述する欄や各教科等の内容・スキルの学習指導要領の位置付けを記述する欄を設定した。また、評価計画を通してコンピテンシーの育成につながる学習内容になっているのかを見直すことに留意した。

これまで、学習活動ありきの単元計画に陥りがちであったが、評価計画を通して、コンピテンシーの育成の場を意識し、単元全体を通して、コンピテンシーの育成につながる学習内容になっているのかを

見直すことや繰り返し評価を行うことで、指導と評価が明確になり、コンピテンシーの育成につながると考えた。また、学習全体の俯瞰を目的とする年間指導計画では、各教科等の具体的な関連がなされず、日々の授業との関連が難しいと考える。このことから、単元計画に関連する教科等の学習指導要領における位置付けを記述することで、教科等との授業レベルでの関連について意識付けを行うことをねらいとした。

オ ステップ5「評価について」

(7) 評価規準の設定について

ステップ2で各校の最高学年を想定した目指す姿からコンピテンシーの定義を確認し、具体的な児童生徒の姿を想定することで、誰もが同様に評価できる妥当性、信頼性のある評価規準を作成する。また、これまでの課題として目指すコンピテンシーの評価規準を基に各学年における評価規準を作成してきたが、各学年の段階の相違が「よりよく」や「効果的に」等の言葉のみで示す等、具体的な姿で明確に設定されていないことにより妥当性、信頼性に欠ける面があることや、評価に生かされていない現状があった。このことから、児童生徒の実態や発達段階を考慮し、学習指導要領を参考にすることで、より明確で具体的な評価基準を作成することができると考えた。しかし、どのコンピテンシーにも評価基準の段階が示されるわけではなく、コンピテンシーによって到達目標、方向目標の違いがあり、段階を明確に示すことができないものもある。このことから、各学校の児童生徒の実態から、評価基準の段階を設定し、実践を通して見直しを繰り返し行うことで、妥当性、信頼性のある評価規準、評価基準へとつながると考える。さらに、コンピテンシーの定義と同様に、評価規準と評価基準は、児童生徒と共有することで自己評価を行い、主体的な学びへとつなげることができると考える。

次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の重要性が述べられており、児童生徒同様に、保護者や外部講師に年間指導計画の提示やコンピテンシーの定義、評価規準、評価基準を共有することで、実社会のとのつながりや適切な外部評価へとつながると考える。

(4) 評価方法について

これまで、単元計画の評価方法の記述として、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成23年）の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」では、評価方法について、

行動観察，ワークシート，制作物等の記述を行っているが，具体的に何を使ってどのように評価するかの記述がないことから，評価に生かされていない現状があった。そこで，単元計画作成時の評価計画の段階から，コンピテンシーを具体的にどのような方法で評価するのかについて想定し，記述を行うこととした。例えば，意欲・態度について，いつ，どのような活動のどのような姿を教師による行動観察で見取るのか，ワークシートの振り返りの記述のどのようなキーワードから見取るのか，また，自己評価，他者評価，外部評価のいずれから見取るか等の具体的な評価計画を意識できるようにした。また，コンピテンシーに応じた多様な評価の方法を提示した。

カ ステップ6「実践の改善について」

各学校の取組において，カリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクルが十分に機能していない現状がある。このことから，単元終了時や年度末に年間指導計画，単元計画，評価規準，評価方法等の見直しがされていないことや児童生徒のコンピテンシーの育成状況についての分析や次年度への引き継ぎが行われていない等の課題があった。

このことから，ステップ6では，カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを基に，次年度の取組に向け，ガイドブックのステップ1へつなげるため，データを基にした客観的な分析や教職員による見取り等を生かした成果と課題の分析，それらの分析を基にしたコンピテンシーの選択や定義の見直し，評価規準，評価基準の見直し，年間指導計画，単元計画の見直し等や引き継ぎを提示した。

IV 「課題発見・解決学習」の指導と評価の改善に係る実際

次に，ガイドブックに示した「ステップ1」から「ステップ6」の六つの留意点に基づき研究協力校における授業改善について示す。

1 実態把握について

ガイドブックでは，児童生徒の実態把握の方法として，ウェビングの活用を提案している。

ウェビングは，既存の知識を可視化することにより，関連性を広げることで知の構造化をねらいとしているが，これまでの取組から，導入時や低学年において言葉の連想になってしまう課題があった。このため，図6のウェビングでは，児童がテーマに関するキーワードを番号順に書き込むことで，拡散的思考を伴う知の構造化が行えるよう改善している。

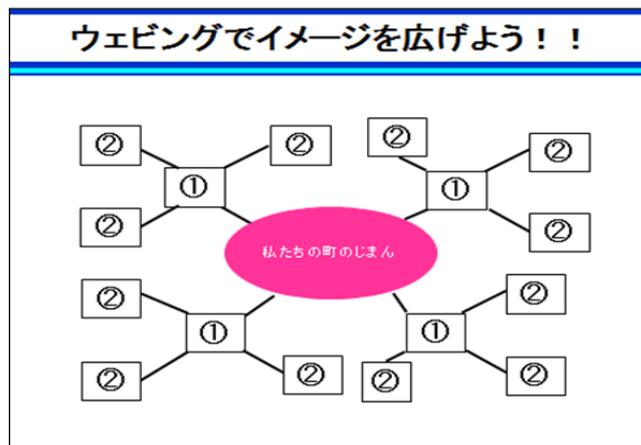


図6 導入時のウェビング

2 コンピテンシーの設定について

呉市立警固屋小学校・中学校及び呉市立原小学校では，学校で定めるコンピテンシーを児童生徒と教師が共有するために掲示物を活用している。

警固屋小学校・中学校は，小中一貫教育を進めており，9年間を見通して図7に示す児童生徒に育成しようとするコンピテンシーを設定している。呉市立原小学校では，コンピテンシーを共有するために次頁図8に示す掲示物「原っ子マイスター」と称し作成している。また，次頁表3に示すコンピテンシーの定義を低学年，高学年と児童の発達段階に応じて提示している。総合的な学習の時間や教科等の授業の導入時に，本時で付けるコンピテンシーを児童が設定し，児童自身がコンピテンシーの定義に沿った目標を設定し，本時の終末の振り返りにおいて，コンピテンシーの育成状況についての自己評価を行うことで，学びに向かう意欲・態度の育成され，主体的な学びへとつながっている。

このように，教育活動全体においてコンピテンシーを意識付けることにより，教師の指導や児童生徒の意識付けに役立つと考える。



図7 呉市立警固屋小学校・中学校の掲示物



図8 呉市立原小学校「原っ子マイスター」

表3 呉市立原小学校におけるコンピテンシーの定義 (高学年対象)

コンピテンシー	コンピテンシーの定義(高学年対象)
課題設定力	体験活動などを通して、問題や疑問から課題を設定し課題意識をもつことができる。
論理的表現力	複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。
主体性・積極性	課題解決するために工夫をしたり、進んで挑戦し積極的に働きかけたりすることができる。
協働する力	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、課題を解決することができる。
自己理解 自らへの自信	学習の過程や成果から、達成感や自信をもち、学ぶことの意味や価値を考慮することができる。
郷土愛	郷土の伝統と文化を大切にし、地域社会の一員として地域のために活動に取り組むことができる。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事	入学式・始業式・遠足	運動会 避難訓練	原っ子花ハート プール開き・防災訓練			避難訓練	公開研究会	学習発表会 原っ子花ハート		三ツ池ふれあい交流会、避難訓練		卒業式 修了式	
地域行事	阿賀地区町民体育大会		今昔子どもふれあい大会				秋祭り			阿賀地区ロードレース大会	大型カルタ大会		
○地域の人材等外部講師(保護者を含む) ○行政関係者 ○専門家等外部講師 ○地域の学習対象(特産物、歴史、行事等)	呉市防災センター	呉工業高等専門学校の教授・学生	呉工業高等専門学校の教授・学生、地域の一人暮らしのお年寄り	阿賀安全パトロール会長		呉工業高等専門学校の教授・学生、阿賀北郵便局、阿賀北J.A.、原保育園、宝徳幼稚園、藤本歯科、阿賀まちづくりセンター	呉工業高等専門学校の教授・学生		呉工業高等専門学校の教授・学生				
総合的な学習の時間	<p>原っ子マイスターをどうする?</p> <p>二分の一人式を開こう</p> <p>「どんな二分の一人式にしたいかな? (8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の進め方を考えよう。 ・1年間の記録を残そう。 <p>原のまちを守り隊 ～原の防災マップを作ろう～ (20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域って何だろう? ・どんな所が危険か調べてみよう。 ・危険な所をマップにまとうよう。 ・原のまちの一人暮らしのお年寄りの方が安全に避難するための防災マップを作ろう。一層けよう。 <p>原のまちを守り隊 ～原の防災マップを開発してPRしよう～ (25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難するのに不安なことがあるって言われていたよ。僕たちにできることはないかな。 ・原のまちの防災についていろんな方法で調べてみよう。 ・原のまちの人が災害時に困ることや必要なものについて考えよう。 ・原の防災グッズを開発しよう。 ・作った防災グッズを原の町の人にPRしよう。 ・たくさんの方に支えてもらったね。お世話になった方にお礼の気持ちを届けよう。 <p>・これまでの自分の成長を振り返ろう。 ・家族や地域の人に支えられて大きくなったんだな。 ・感謝の気持ちを伝えよう。(15)</p>												
	知識	地域や学校で防災に取り組む必要と防災意識の大切さに気付く。						地域や学校で防災に取り組むよさと災害に備えた安全なまちづくりの大切さを理解する。			成長が多くの人に支えられていることに気付く。		
	スキル	体験活動などを通して、調べてみたいことや解決したいことから課題を設定し課題意識をもつことができる。・・・① 複数の事柄や資料などについて、自分で視点を立てて比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。・・・②											
	態度・態度	課題解決のために、進んで挑戦し、対象に対して自ら働きかけることができる。・・・③ 校内や地域の人とかわりながら協力して、課題を解決することができる。・・・④											
価値観・倫理観	学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付くことができる。・・・⑤ 地域のよさを理解し、課題の解決に向けて、地域とかわりながら活動に参加することができる。・・・⑥												
各教科等との関連	国語	音読しよう「こわれた千の楽器」③④ 図書館へ行く心の動きを伝えよう②⑤	説明のまとまりを見つけよう「ヤドカリとイソギンチャク」①② 案内係になろう① 人物の変化をとらえよう「走れ」③	メモのとり方をくふうして聞こう① みんなで新聞を作ろう①②	「ことわざブック」を作ろう①⑤ 本は友達③	詩を詠もう③ 身の回りの文章を読み比べよう① わたしの考えたこと②⑤	感想を伝え合おう 「ごんぎつね」⑤ 報告します。みんなの生活①②④	お願いやお礼の言葉を書こう①② くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう「くらしの中の和と洋」②⑥	読書会を開こう②③	言葉をつなげて④ わたしたちの生活とロボットについて考えよう③⑤	クラスで話し合おう② 目的や形式に合わせて書こう①④	音読げきをしよう「木竜うるし」④ 言葉のタイムカプセルを残そう⑤	
	社会	火事からくらしを守る①	地震・津波からくらしを守る①③		水はどこから①②	ごみのしよりと利用①②		二河の井出⑥					世界とつながる広島県③
	算数		折れ線グラフ②			調べ方と整理の仕方②							
	理科												
	体育												
	音楽										心をつなぐ歌声④⑥		曲の気分を感じ取る④⑤
	図画工作												
	道徳		「ふるさとを守った大イチョウ」4-⑤⑥								「しようほうのおじさん」2-(4)⑥		
	特別活動(学級活動)			雨の日の生活①							三ツ池交流会に開けて④		二分の一人式をしよう⑤

図9 アクション・プランにおける年間指導計画(改訂版) <呉市立原小学校第4学年>

3 年間指導計画について

呉市立原小学校では、前頁図9の年間指導計画を作成し、総合的な学習の時間と教科等との関連を意識した授業を実践した。これは、29頁図2の年間指導計画の書式をベースに、「答申」で述べられている「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す観点から、①地域行事②地域人材③行政関係者④専門家等の外部講師等の地域の「人・モノ・こと」に関する4項目を記載する欄を新たに設けた。

4 単元計画について

呉市立原小学校では、30頁図5の単元計画作成シートを基に、表4に示す全25時間の単元計画を作成した。学習指導要領に示された教科等との関連や評価規準（評価方法）が明確になることで、コンピテンシーを意識した授業へと授業改善を行うことができた。また、次年度への引き継ぎにおいても、これまで以上に円滑に行えるようになり、地域の協力者との教育課程の共有が進むと考えられる。

表4 教科との関連を生かした単元計画 <呉市立原小学校第4学年>

【呉市立原小学校】 第4学年 「原のまちを守り隊～原の防災グッズを開発してPRしよう～」 単元計画（全25時間）			
次	時	学 習 内 容	評価規準（評価方法） 教科等との関連
一	1	課題の設定1 ○ 1学期の学習の振り返りをする。 ○ 防災マップを届けた地域の一人暮らしのお年寄りの方から、防災マップの感想を聞き取ったことをまとめることで、次の課題を設定する。 ・ 地域の様々な年代の人の考えを知るための方法を考える。	○ 原の地域や人に関心をもち、学習計画を立て、見通しをもって取り組もうとしている。（ワークシート，児童観察） 【主体性・積極性】 社会科 「くらしを守る」 学習したことをもとに安全マップにまとめ、今の自分たちにでもできることを考える。
二	2 3 4	情報の収集1 ○ 原のまちの防災について設定した課題について、必要な情報を収集する。 ・ 地域の人に災害が起きたときに準備しているものや困っていることを調査するアンケートを作る。 ・ 国語科「報告します，みんなの生活」の学習を生かしてアンケートを作る。 ・ 人が集まる場所で調査活動をする。 ・ 防災について研究している呉工業高等専門学校の先生や学生にアドバイスをもらいながら災害時に必要なものについて調べる。	○ 質問の仕方や回答欄を工夫してアンケートを作っている。（ワークシート，児童観察） 【論理的思考力・判断力・表現力】 ○ 地域の課題解決に向けて、自分たちができることは何かということ意識しながら、活動に取り組もうとしている。（フリップボード，ワークシート，児童観察） 【郷土愛】 ○ 災害時に安全に避難するための必要な情報を自分から求め、主体的に調べたり、地域や関係機関、専門の方に働きかけたりしている。（ワークシート，児童観察） 【主体性・積極性】 国語科 「報告します，みんなの生活」 アンケート調査をして分かったことと考えたことを、図表やグラフを用いながら、聞き手に分かりやすく筋道を立てて話して報告することができる。 社会科 地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことや考えたことを表現することができる。
	5 6 7 8	整理・分析1 ○ 収集した情報を基に、原の地域の人が災害時に困ることや必要なものについて話し合う。 ・ 調査結果をまとめる方法を考える。 ・ アンケート結果を整理する。 ・ 整理したアンケート結果から、災害が起きたときに必要なものについて分かったことや考えたことを話し合う。	○ 調査結果を分かりやすくするための方法について進んで考えを出している。（児童観察） 【主体性・積極性】 ○ 収集した情報を分析、整理し、発表資料を工夫している。（発表資料，児童観察） 【論理的思考力・判断力・表現力】 算数科 「調べ方と整理のしかた」 資料を観点別に整理する方法を考えたり、表を活用して問題解決を図ったりすることができる。
	9 10 11 12	まとめ・創造・表現1 ○ 地域の人が必要な防災グッズを考える。 ○ 原の防災グッズを作る。	○ 「原の防災グッズ」として必要なものについて、根拠を基にした自分の考えをもち、情報を整理・分析しながらグルー 算数科 3年「表とグラフ」 資料を分類整理し、表やグ

	<p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災グッズを作るために必要な情報を集める。 <p>課題の設定 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災グッズを作って、原のまちの人にPRする方法を話し合う。 ・ 作成した防災マップのよさを効果的に伝える方法を考える。 <p>14</p> <p>情報の収集 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人が集まる所やイベントについて話し合う。 ○ 防災グッズをPRするための必要な情報を収集する。 <p>15</p> <p>整理・分析 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 収集した情報を基に、地域の人にPRする方法を考え、まとめる。 <p>16</p>	<p>プの考えをまとめることができる。 (発表, ワークシート, 児童観察) 【論理的思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人のために防災グッズを作るという目的を意識して、見通しをもって取り組もうとしている。 (ワークシート, 児童観察) 【郷土愛】 ○ 防災グッズを作るための必要な情報を自分から求め、主体的に調べたり、地域や関係機関、専門の方に働きかけたりしている。(ワークシート, 児童観察) 【主体性・積極性】 ○ 地域の人に必要な防災グッズをPRする方法を考えている。 (ワークシート, 児童観察) 【主体性・積極性】 ○ 原のまちや自分たちの学校で地域の人が集まる場所を積極的に話し合っている。(発表, 児童観察)【主体性・積極性】 ○ 防災グッズをPRするための情報収集に主体的に取り組んでいる。 (ワークシート, 児童観察) 【主体性・積極性】 ○ 地域の人に防災グッズをPRする方法を考えて、まとめている。 (ワークシート, 児童観察) 【論理的思考力・判断力・表現力】 	<p>ラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができる。</p> <p>社会科 「ごみのしよりと利用」リサイクルについて調べ、再利用の取り組みが資源の有効利用になっていることを理解する。</p> <p>図画工作科 「つくって、つかって、役立てて」生活に役立つ入れ物や箱のつくり方をくふうすることを通して、形や色、方法や材料を工夫することができる。</p>
三	<p>17</p> <p>まとめ・創造・表現 2</p> <p>18</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人に防災グッズをPRするためのプレゼンテーションを作る。 ・ PRするためのプレゼンテーションになるように工夫する。 ・ 説明の仕方をよりよくするための交流をする。 <p>19</p> <p>20</p> <p>実行</p> <p>21</p> <p>22</p> <p>23</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「三ツ池ふれあい交流会」で防災グッズをPRする。 ・ 防災グッズをPRするプレゼンテーションをする。 ・ 地域の方からの反応や評価を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人にPRするために、収集した情報を整理、分析し、防災グッズのよさがよく分かるように表現方法を工夫している。 (プレゼンテーション, ワークシート, 防災グッズ, 児童観察) 【論理的思考力・判断力・表現力】 ○ 地域の人に分かりやすい説明になっているかを考えて交流している。 (プレゼンテーション, ワークシート, 防災グッズ, 児童観察)【主体性・積極性】 ○ 地域の人を守るために、防災グッズのよさを知り、使ってほしいという願いをもって発表している。 (発表, ワークシート, 児童観察) 【郷土愛】 ○ 地域の方の考えを理解している。 (ワークシート, 児童観察) 【郷土愛】 	<p>国語科 「報告します, みんなの生活」聞き手の様子を確かめながら, 筋道立てて, 分かりやすく工夫して話すことができる。</p> <p>道徳 「消防団のおじさん」自分たちの生活を支えている人々を尊敬し, 感謝する心情を育てる。 2-(4) 尊敬・感謝 特別活動 「三ツ池ふれあい交流会にむけて」交流会の計画を立てる。</p>

24 25	振り返り ○ 学習を振り返り、話し合ったりお礼の手紙を書いたりして単元全体をまとめる。	○ 目的意識や相手意識をもって、用件を分かりやすく伝える手紙を書いている。(手紙)【論理的思考力・判断力・表現力】 ○ これからの原のまちの防災についてさらに考えていく見通しと意欲をもっている。(ワークシート、児童観察)【郷土愛】	音楽科 「心をつなぐ歌声」 地域の方への感謝の思いをこめて歌う。 国語科 「お願いやお礼の手紙を書こう」 目的に合わせて内容を考え、必要な事柄を落とさずに、依頼状や礼状などの手紙を書くことができる。
単元後	課題の設定3 自己の成長から家族や地域の人に感謝の気持ちを伝えるために、自分たちができることはないかという次の課題を設定する。		

5 評価について

呉市立原小学校では、表5に示すコンピテンシーの育成に係るルーブリックを作成している。1年間を通して、授業実践を行いながら見直しを行うことで妥当性、信頼性のある評価へと改善を図っている。

次頁表6の呉市立警固屋小学校・中学校及び表7の大竹市立小方小学校・中学校では、9年間を見通したコンピテンシーの評価規準を設定している。これらの取組により、コンピテンシーの育成を意識した系統的な指導がなされている。

表5 コンピテンシーの育成に係るルーブリック <呉市立原小学校>

本校で育成すべき資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力、人間性等			
	知識	スキル		意欲・態度		価値観・倫理観	
	知識・情報	課題設定力	論理的思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	協働する力	自己理解・自らへの自信	郷土愛
総合的な学習の時間の評価の観点との関わり	知識	学習方法に関すること		自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
I	具体的な活動や体験を通して、対象に対して興味・関心をもつことができる。	具体的な活動や体験を通して、対象を比べたり分けたりして説明することができる。	具体的な活動や体験に対して意欲的に取り組むことができる。	家族や身近な人とかかわりに関心をもつことができる。	自分のよさに気付くことができる。	身近なものに親しみ、愛着をもつことができる。	
II	具体的な活動や体験を通して対象に対して興味・関心や強い思い・願いをもつことができる。	身の周りの複数の事柄や資料について、気付いたことを基に、比べたり分けたり、例えたりして順序よく、説明することができる。	身近な対象に進んでかかわり、意欲的に学習したり、生活したりすることができる。	家族や友だちや先生をはじめ、地域の様々な人々と適切に接することができる。	自分と身近な人々との関わりに関心を持ち、自分のよさや可能性に気付くことができる。	地域の文化や生活、自然に親しみ、よさに気付き、愛着をもつことができる。	
III	各教科等に関する個別の知識や技能など 体験活動などを通して調べてみたいことや解決したいことから課題を設定し、課題意識をもつことができる。	複数の事柄や資料などについて、自分で視点を設けて比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。	課題解決のために、進んで挑戦し、対象に対して自ら働きかけることができる。	校内や地域の人とかかわりながら協力して、課題を解決することができる。	学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付くことができる。	地域のよさを理解し、課題の解決に向けて地域とかかわる活動に参加することができる。	
IV	体験活動などを通して問題事象から課題を設定し、課題意識をもつことができる。	複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。	課題解決の過程において工夫をしたり、進んで挑戦し対象に対して積極的に働きかけたりすることができる。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、課題を解決することができる。	学習の過程や成果から達成感や自信をもち、学ぶことの意味や価値を考えることができる。	郷土の伝統と文化を大切に、地域社会の一員として貢献を意識して活動に参画することができる。	
V	職業や自己の将来につながるような課題を設定することができる。	多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、論理の展開の仕方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	目標を明確にし、課題の解決に向けて見通しをもって計画的に行動することができる。	共通の目標に向かって多様なメンバーと連携してやり切ることができる。	学んだことを現在及び未来の自己の生き方につなげて考えることができる。	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に貢献することができる。	

表6 9年間を見通したコンピテンシーの評価規準 <呉市立警固屋小学校・中学校>

育てようとする資質や能力及び態度									
育てようとする力	前期				中期		後期		
	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	7学年	8学年	9学年
A 自律的活動能力	・児童が目標をもち、自分のこととして意欲的に行動することができる。				・児童生徒が自分で目標をもち、自ら考え自己決定し、行動することができる。		・生徒が自分で目標をもち、自ら考え、他者との関係において、適切に判断し行動することができる。		
B 問題解決能力	・児童が問題を見だし、問題の解決方法を計画し、実行することができる。				・児童生徒が、自分で問題を見だし、解決方法を立案、検討、実行することができる。		・生徒が自分で問題を見だし、解決方法を立案、検討、実行し、その過程を振り返ることができる。		
C 論理的思考力	・情報を比較したり、関係付けたりして、理由を挙げて、結論を導き出すことができる。				・必要な情報を抽出、比較、整理し、根拠や証拠を明確にして結論あるいは判断を導き出すことができる。		・必要な情報を抽出、比較、整理したり、仮説を立て検証したりするなど、根拠や証拠を明確にして、結論あるいは判断を導き出すことができる。		
D コミュニケーション能力	・自分の意見を伝え、また他者の意見を受け入れながら、話し合ったり、活動したりすることができる。				・自分の意見をさまざまな表現方法で伝え、他者の意見を柔軟に受け入れながら、協働して発想したり、活動したりすることができる。		・自分の意見をさまざまな表現方法で伝え、他者の意見を柔軟に受け入れながら、比較・検討し、協働して発想したり問題を解決したりすることができる。		

表7 9年間を見通したコンピテンシーの評価規準 <大竹市立小方小学校・中学校>

	思考力	主体性	自らへの自信
育てようとする力	学習や生活上の課題 ① 「事柄を比較する、分類する、関連付ける、類推する」などの考える技法を活用して考えることができる。 ② 考える技法を活用して、課題解決をすることができる。	学習や生活上の課題 ① 粘り強く対処し、解決を目指すことができる。 ② 「自分なりに納得できる答え」を探し続けることができる。	協働的な学習を通して、 ① 「分かったこと」「気付いたこと」「理解できたこと」などを基に、自己を振り返るとともに、新たな考えをもつことができる。 ② 「自分の意見を“再構築”する」ことができる。
中2・中3	○ 考える技法を用いて考えを整理し、既習事項や経験を結び付け、根拠を示しながら自分の意見を述べることができる。	○ 自ら課題を見付け、見通しを立てて課題解決に向けて、自分なりに納得できるまで答えを探し続けようとしている。	○ 自己の学びを振り返り、自分の考えや意見をよりよいものに再構築することができる。
小6・中1	○ 「比較する、分類する、関連付ける、類推する」などの考える技法を活用して考えることができる。	○ 自ら課題を見付け、見通しを立てて課題解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く取り組もうとしている。	○ 「分かったこと」「気付いたこと」「理解できたこと」について他者と交流し、新たな考えをもつことができる。
小3・小5・小4	○ 他者の意見と自分の意見を比較しながら自分の考えをまとめ、その意見を伝えることができる。	○ 自ら課題を見付け、見通しを立てて課題解決に向けて、最後まで粘り強く取り組もうとしている。	○ 「分かったこと」「気付いたこと」「理解できたこと」などを基に、自己の学びを振り返ることができる。
小1・小2	○ 自分の考えをもち、表現する（書く、話す）ことができる。	○ 興味関心をもって、自分が取り組むべき課題を見出す（理解する）ことができる。	○ 学習したことから「分かったこと」「学んだこと」を振り返ることができる。

V 「課題発見・解決学習」の指導と評価の教科等との関連に係る授業実践

研究協力校における教科等との関連に係る授業実践について以下に示す。

1 呉市立原小学校 第4学年

【育成する資質・能力】

- 課題設定力，論理的思考力・判断力・表現力
- 主体性・積極性，協働する力
- 自己理解・自らへの自信，郷土愛

単元名「原のまちを守り隊～原の防災グッズを開発してPRしよう～」

★教科等との関連

- 社会科 単元名「くらしを守る」
学習したことを基に安全マップにまとめ，今の自分たちにでもできることを考える。
- 国語科 単元名「報告します，みんなの生活」
アンケート調査をして分かったことと考えたことを，図表やグラフを用いながら，聞き手に分かりやすく筋道を立てて話して報告することができる。
- 算数科 単元名「調べ方と整理のしかた」
資料を観点別に整理する方法を考えたり，表を活用して問題解決を図ったりすることができる。
- 算数科 単元名「表とグラフ」第3学年
資料を分類整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができる。

原小学校第4学年では，表4の単元計画の中で国語科，社会科，算数科，音楽科，図画工作科，道徳，学級活動との関連を生かした授業を実践している。

社会科との関連として，1学期に校区内の危険箇所について，地域の呉高等専門学校の学生及び教授と共に調査活動を行い，その結果を基に図10に示す防災マップを作成し，地域の一人暮らしの高齢者へ配付した。2学期には，防災マップを基にこれから自分たちにできることについて考える学習を行った。

また，図11に示す地域住民の防災対策についてのアンケート調査では，3学期に学習予定であった国語科「報告します，みんなの生活」を2学期へ変更した。このことより，国語科の学習を実社会の場面で活用することができた。

アンケート結果の分析においては，次頁図12に示

す算数科で学習した集計方法を生かし，漏れや落ちのない集計を行うことができた。また，集計結果を分かりやすく表や棒グラフに表現することができた。さらに，集計数が少ない場合のグラフの有効性を考慮し，次頁図14に示す表現の工夫を行うことができた。



図10 防災マップ

4はし

「災害が起きたとき」についてのアンケート

オオしたち，原小学校4年生は，総合的な学習の時間に「防災」について学習しています。災害が起きたときに，地味の方に安全にのみならず，ためになる物が，必要なものを調べることにしました。ぜひ，アンケートにご協力ください。

① 災害が起きたときのために，じゅんじている物はありますか。○つけてください。

1.かい中電灯 2.ラジオ 3.水 4.ひじょう食(か-あめなど) 5.マスク 6.タオル 7.着がえ 8.ヘルメット 9.防災マップ 10.ひじょうぶくろ 11.じゅんじてない

② これのじゅんじている物は何ですか。他にあれば，その他のところに書いてください。

1.かい中電灯 2.ラジオ 3.水 4.ひじょう食(か-あめなど) 5.マスク 6.タオル 7.着がえ 8.ヘルメット 9.防災マップ 10.ひじょうぶくろ 11.その他()
--

③ 災害が起きたときに，心配なことは何ですか。

年配りを教えてください。

10代・20代・30代・40代・50代・60代以上
ご協力ありがとうございました。
アンケート用紙は，ほはこの中に入れてください。
原小学校 4年 4はし

図11 アンケート

2 江田島市立大古小学校 第6学年

【育成する資質・能力】

- 課題発見・解決力，表現力
- 主体性，協働する力
- 共感する力

単元名「オリーブで街づくり！江田島市を活性化するのは僕たちだ」

★教科等との関連

- 算数科 資料を分類整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること
- 社会科 社会的事象を具体的に調査し地図や統計など具体的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味について考えること
- 国語科 互いの立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うこと

大古小学校第6学年では，江田島市のオリーブによる街づくりをテーマとし，41頁表10に示す単元計画において算数科，社会科，国語科等の関連を生かした学習を行っている。

市の施策やオリーブに関わる人々の努力や願いについて学び，他者と共によりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，自己の生き方を考えることができることを目的としている。

単元導入時には，算数科との関連を生かし図15に示す江田島市の特産物である柑橘類の生産量と図16に示す耕作放棄地の推移についてのグラフを活用した。江田島市と広島県全体との比較を通して，近年江田島市の耕作放棄地が減少しており，柑橘類の代替えとしてオリーブ栽培が推進されていることに気付かせることをねらいとしている。

その後，実社会の現状について，市役所農林水産課オリーブ振興室との連携を図り，オリーブ園の見学やオリーブ振興について各自の疑問に応じた聞き取りを行う。そこで得た情報から，「自分たちができること」を協議し，オリーブの収穫やオリーブオイルの搾取，新漬けづくりなど，オリーブに係る体験や製品づくりを行った。

社会科との関連では，図17のフリップボードを活用し，オリーブの認知度について住民からの聞き取りを行った。また，オリーブ生産者からの聞き取りやオリーブ耕作地の分布調査活動を行い，次頁図18に示す植え付けマップを作成することで，オリーブの作付の分布を把握した。さらに，地域の特産物の生産，販売を行っている人々との交流やオリーブを

特産とする小豆島との比較を行いながら思考を深める場を設定している。

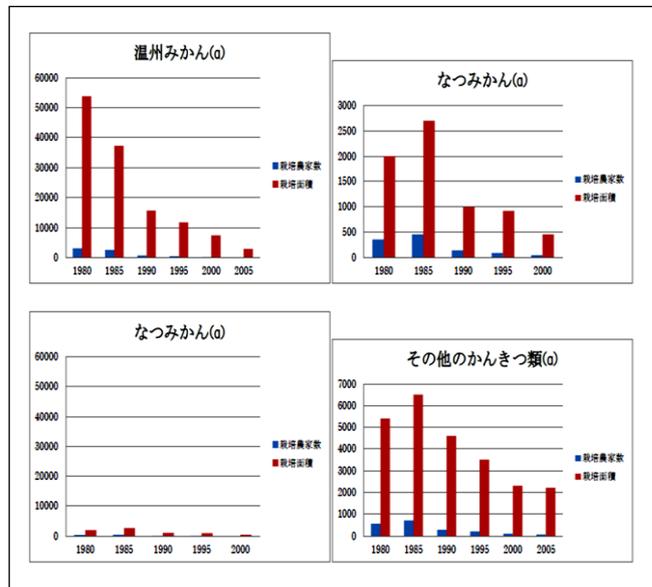


図15 江田島市の特産物の栽培農家数と栽培面積の推移

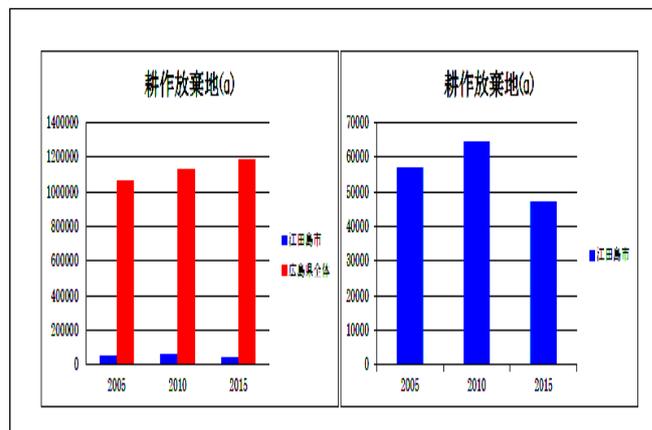


図16 江田島市と広島県の耕作放棄地面積の推移

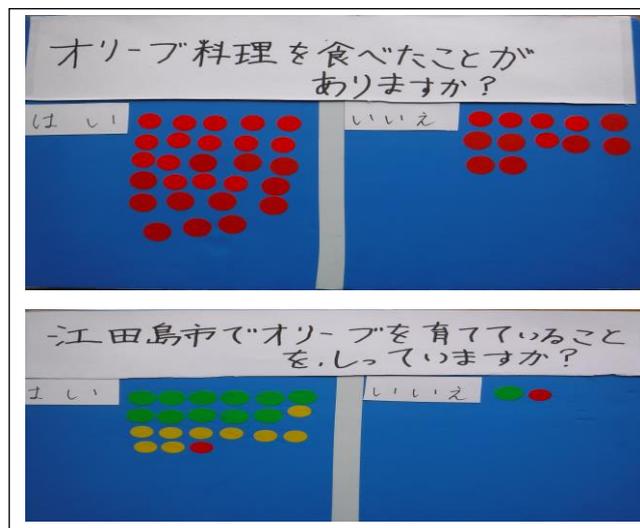


図17 地域住民の認知度調査(フリップボード)

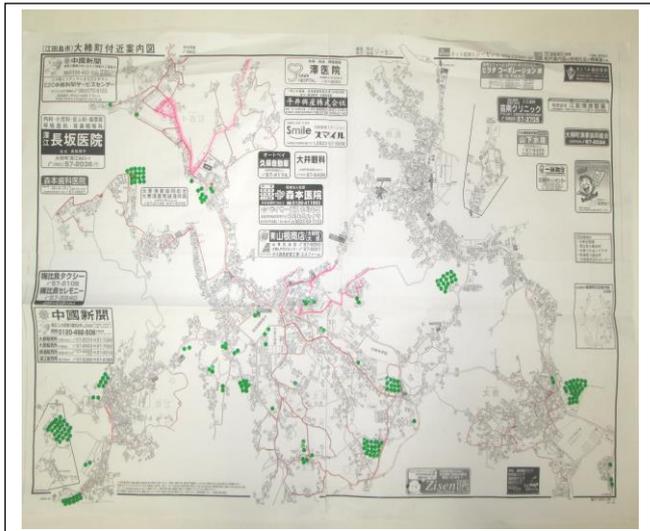


図18 オリーブ耕作地分布マップ

国語科との関連として、オリーブ振興のよさや課題について議論し、地域の住民やオリーブ振興課職員へのプレゼンテーションを通して提言を行った。児童の話合いの結果を表9に示す。

表9 オリーブのよさと課題

よさ	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○オリーブを使った料理は種類が豊富だし、商品化もできる。 →江田島市の特産品を増やせる。 ○耕作放棄地にオリーブを栽培すれば収穫ができる。 →地域の活性化につながる。 ○渋みがあるから、鳥獣の被害が少ない。 ○江田島の気候に合っていて育てやすい。 ○寿命が長い植物である。 ○一本あたりの栽培に使う面積が少なく、一本あたりの収穫量が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培から収穫までに時間がかかるので、木が小さいときには収入が見込めない。長期計画が必要。 ○不作の年もあって収入が不安定。 ○オリーブにはくせがあり、苦手という人が多い。 ○オリーブを作ることが増えると、他の農産物がとれなくなる。 ○オリーブの苗木が高価なので、購入費用が掛かる。 ○誰にでも食べられるよう、苦味をなくす必要がある。

図19に示すプレゼンテーション内容の検討では、「オリーブの木を増やすため」のアイディアとして、①違う種類のオリーブを植える、②苗木をプレゼントする、③オリーブづくりのよさを伝える三つのアイディアについて、その効果と実行についてマトリクスを活用し、グループで検討した。児童は、これまでの学習から「ルッカという苗木は、珍しいけれど高価であること」「苗木を配るためのイベントには費用が掛かること」「苗木を増やすためには、挿し木ができること」等これまでに収集した情報を活用し、考えの構築を行った。

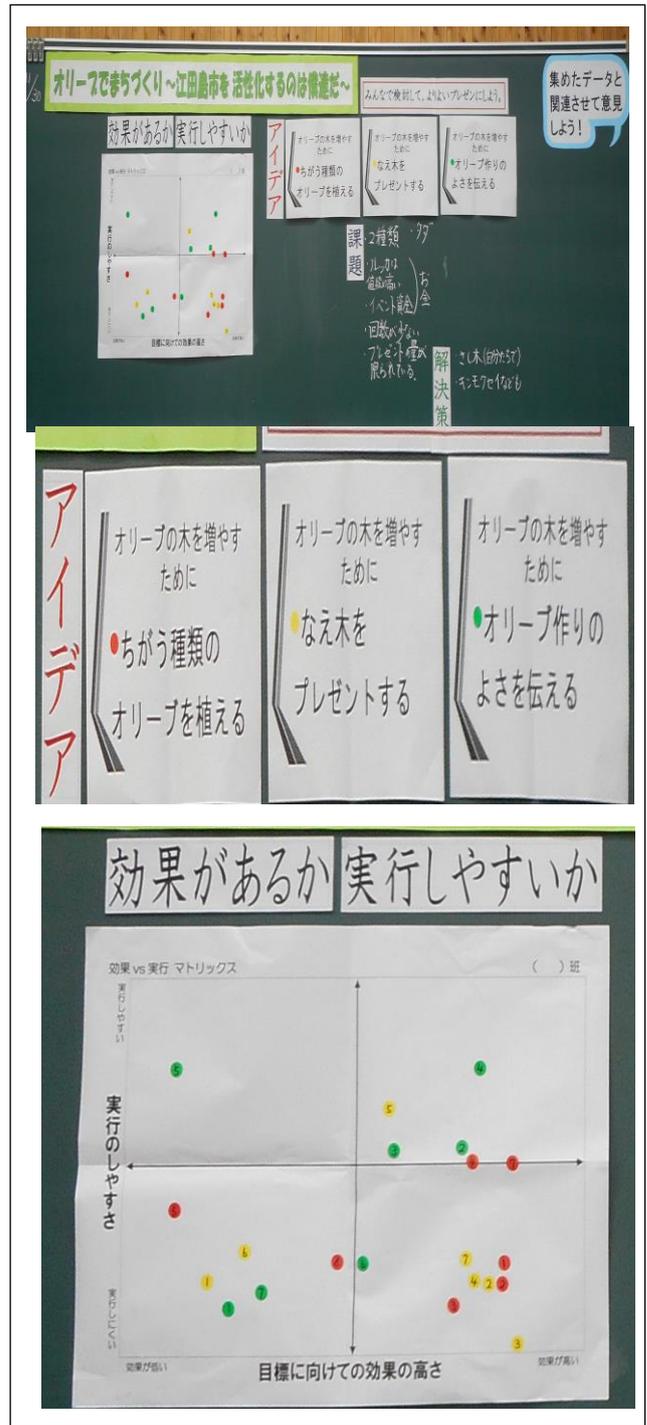
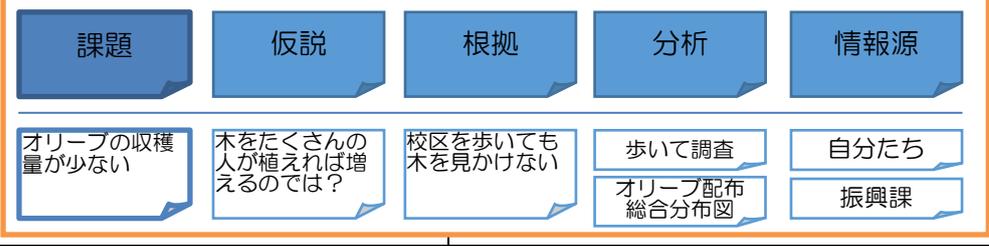


図19 プレゼンテーションの内容についての検討

グループの協議内容を学級で共有する工夫として、出てきたアイディアを3色のシールで分類し、「実行のしやすさ」と「目標に向けての効果の高さ」を指標としたマトリクスにグループごとにシールを貼り付けた。同じようなアイディアでも、その根拠が異なっていたり、実行と効果の関係性が異なっていたりすることを取り上げて話し合うことにより、児童は自分の考えの根拠が明確になり、児童の思考の深まりが見られた。

表10 教科との関連を生かした単元計画 <江田島市立大古小学校第6学年>

【江田島市立大古小学校】 第6学年 「オリーブでまちづくり！～江田島市を活性化するのは僕たちだ～」			
単元計画 (全32時間)			
次 時	学習内容 (・資料, ◇ツール等)	評価規準(評価方法)及び児童の意識	教科等との関連
一 1	○江田島市の土地利用について、グラフを活用し、広島県全体との比較を通して、気付きを出し合う中で、江田島市がどんな町かを掴む。 ・みかんの収穫量の減少 ・耕作放棄地の経年変化 ・地域を取り上げた情報番組ビデオ	○江田島市が過疎の問題を抱えており、就労がその要因の一つであることに気付いている。 (ワークシート・振り返り)【課題発見・解決力】 ★だんだん、耕作放棄地が増えているね。でも、最近では減っているよ。みかんの収穫量は少なくなっているよ。みかんに代わって最近オリーブをよく見るようになったよ。これから江田島市の産業はどうなるのだろう。	算数科 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること D (3)
二 2 3	○江田島市のオリーブについて知りたいことから、江田島市がオリーブ作りを進めるわけを調べる。 ・江田島市のオリーブ収穫量の推移 ・栽培方法・適気候・活用法・歴史	○問題に応じて、調査方法や記録の仕方などを選んで、調べたり表現したりしている。 (ポートフォリオ) 【課題発見・解決力】 ★江田島市では、オリーブ作りをすすめているね。どうして、江田島でオリーブを作るのだろう。	国語科 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと C (1)カ
三 4 5	○調べたことを共有し、オリーブのよさや課題を考える中で、江田島市でオリーブ産業が振興されている理由に気付く。 ◇K J法◇ジグソー	○問題を解決するために、K J法、ジグソー学習から情報を比較、分類、関連付けて分析している。 (K J法, ワークシート) 【課題発見・解決力】 ★江田島市はオリーブ栽培に適した気候で、耕作放棄地の有効活用にもなる。でも長期計画でないといけないし課題もありそうだ。 実際のところはどうか、市役所の人に聞いてみたいね。	国語科 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けること A (1)ア 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと A (1)オ
四 6 7 8	○江田島市のオリーブの振興状況やオリーブ作りについて知る。 ・オリーブ園の見学 ・市役所の産業部農林水産課オリーブ振興室の方からの聞き取り。	○オリーブ産業振興推進の現状や取組み、今後の課題について概要を聞き取っている。 (インタビューシート)【課題発見・解決力】	国語科 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること A (1)エ
五 9	○聞き取った内容を基に、課題「自分たちがオリーブで江田島市を活性化する」を設定し、学習計画を立てる (やりたいことを出し合う) ◇K J法◇Y字チャート (広める, 知る, 増やす)	○これまでの学習や活動を振り返り、学習課題をふまえて、学習計画を立てている。 (計画シート) 【課題発見・解決力】 ★オリーブを江田島市では本気で取り組んでいる。自分たちもその一員になりたいが、自分たちにできることは何だろう。	国語科 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けること A (1)ア
10 11 12 13 14	○オリーブの収穫(柿浦小)、搾油、新漬け作りの実際を体験し、体験を振り返る。 ・市役所の産業部農林水産課オリーブ振興室の方からの聞き取り	○体験とこれまでの学習とを結び付け、地域の問題解決に取り組む人々の思いや生き方に思いをはせている。 (振り返りシート, 自己評価, 相互評価) 【主体性】【共感する力】 ★オリーブの収穫は少しするのは楽しいけど、たくさんだと人手がいる大変な仕事だな。オリーブオイルも少ししかとれないし、こんなのが広まるのかな？	国語科 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること A (1)エ
15 16	○オリーブ関心度調査の計画を立てる。 (オリーブの苗木を育てる)	○問題を解決するために、目的や相手に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながら調査している。 (調査カード)【課題発見・解決力】【主体性】 ★地域の人のオリーブへの関心や生産者の思いを調査するには、どんな方法を使えばいいだろう。	社会科 社会的事象を具体的に調査し地図や統計など具体的な資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考えること 1 (3)

六	17 18 19 20	○地域のオリーブ植え付けマップを作成し、農家の方へのインタビューや地域の人へのアンケート調査を行う。 ・オリーブ生産者の方 ・スーパーマーケットのお客さん	○問題解決に向け、地域の一員としての自覚をもち、調査活動に進んで取り組んでいる。 (アンケート用紙、集計表、インタビューシート、コメントカード、自己評価、相互評価、外部評価) 【主体性】 ★オリーブがどのくらい広まっているかを調査したら、したいことが見付かったよ。オリーブで街を活性化するための解決策を市へ提案しよう。	社会科 社会的事象を具体的に調査し地図や統計など具体的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考えること 1 (3)
七	21 22	○これまでに収集した情報を整理分析し、振興計画に意見することまとめる。 ◇課題分析シート	○これまでに収集した情報を整理分析して統合し、提案する意見を導き出している。 (課題分析シート) 【課題発見・解決力】 ★オリーブのよさについて、多くの人に知ってもらふ必要があるぞ。	社会科 社会的事象を具体的に調査し地図や統計など具体的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考えること 1 (3) 国語科 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること A (1) エ
				
八	23 24 25 26 27	○江田島市オリーブ振興計画の意見募集にむけて、自分たちの考えを提案するプレゼンの作成と資料の収集を行う。	○これまで調査、学習したことが分かりやすく伝わるように工夫してプレゼンを作成している。 (P Pシート、発表資料) 【表現力】	国語科 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けること A (1) ア 算数科 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること D (3)
九	28 29 30 31	○自分たちの提案する意見が適切かどうか、江田島市のオリーブ振興のよさと課題(第2次)を基に議論することで、さらに推進していこうとする気持ちを高める。 ◇マトリクス	○自分と異なる意見を受け入れながら、建設的なアイデアを出したり、人の意見も取り入れて自分の考えをよりよくしたりしようとしている。 (マトリクス、コメントカード、自己評価、相互評価) 【課題発見・解決力】 【協働する力】	算数科 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること D (3) 国語科 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと A (1) オ
十	32 33	○オリーブ講習会で地域の方、保護者、農林水産課、オリーブ振興室の方にオリーブ振興についての意見を発表する。 ・市役所の産業部農林水産課オリーブ振興室の方 ・地域、保護者の方	○状況や相手に応じて臨機応変に自分の考えを返し、双方向のコミュニケーションをとりながら発表している。 (V T R資料、コメントカード、自己評価、相互評価、外部評価) 【表現力】	国語科 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと A (2) イ
十一	34	○意見発表会で明らかになった課題について、課題解決の方法を考える。	○自分たちの意見提案の不十分なところを振り返り、代案について考えるなどして課題解決を続けていこうとしている。 【課題発見・解決力】	国語科 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと A (1) オ

3 呉市立警固屋小学校 第4学年

【育成する資質・能力】

- 自律的活動能力
- 問題解決能力，論理的思考力
- コミュニケーション能力

単元名「地域に残る日本の文化をみつけよう ～警固屋地区の祭り～」

★教科等との関連

- 社会科 単元名「かわってきた人々のくらし
(2)のこしたいもの，つたえたい
もの」

地域の人々のくらしについて調査したり年表にまとめたりして，先人のはたらき等を考えるようにする。

- 道徳 資料名「お母さんとの約束」

働くことの大切さを知り，自分の役割や示度とを自覚して，進んでみんなのために働こうとする態度を養う。

4-2 勤労，社会への奉仕

- 国語科 単元名「ごんぎつね」

場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の生活や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。

警固屋小学校第4学年では，地域に残る祭りについて調べ，地域の人々の努力や願いを知り，今後の在り方を考えることをねらいとした学習を，社会科，道徳，国語科との関連を図りながら行っている。

単元の導入時には，イメージマップを活用して地域の祭りの興味・関心についての実態把握を行う。社会科との関連では，地域の複数の祭りについて法被・楽器・神輿等の比較を行い，見学調査を行う。

また，地域の祭りの準備として，例年，地域の人々による清掃活動が行われることから，道徳との関連を生かし，これらの奉仕活動について地域社会における勤労，社会への奉仕について学び，清掃活動へ参加した。児童は，清掃活動を通して，地域の人々の思いや願いについてのインタビューを行った。

その後，国語科では「ごんぎつね」の学習を通して，場面の移り変わりや登場人物の生活や気持ちの変化，情景などの読み取りを叙述を基に行い，その学びを生かし，文化祭で「ごんぎつね」の演劇発表を行う。舞台づくりでは，警固屋中学校3年生との異年齢交流活動も行った。これらの学びを通して，文化祭における「ごんぎつね」の舞台づくりに生かしている。

4 呉市立警固屋中学校 第1学年

【育成する資質・能力】

- 自律的活動能力
- 問題解決能力，論理的思考力
- コミュニケーション能力

単元名「戦時中の暮らしを探る！」

★教科等との関連

- 社会科

【小学校第6学年】

日華事変，わが国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などについて調べ，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

【中学校第1学年】

昭和初期から第二次世界大戦の終結までの戦時下の国民の生活について理解する。

- 国語科

必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。

警固屋中学校第1学年では，戦時中の人々の暮らしを調べ，地域の歴史や産業を知り，当時の人々の思いを捉え，今後の自分の在り方を考えることをねらいとした学習を行っている。

イメージマップを用いた実態調査から，生徒は戦争に関する知識が少なく，興味・関心も低いことが把握されていた。そこで，単元導入時に呉地域の戦時中の暮らしが読み取れるVTRを視聴し，戦時中の生活に関する一人一人の気付きを書き出した。事前にVTRのアニメ版の本を教室に常設するなど，生徒の興味・関心を引き出す環境づくりを行っていた。さらに，市立美術館との連携も図った。

また，「聞くこと」に関する学習が十分でない実態から，他者への聞き取りを行う活動を行い，一人一人の気付きの共通点や相違点について整理することで，多様な気付きを共有する学習を設定した。

次頁図20に示す小学校社会科の既習事項や中学校社会科の教科書掲載の写真を提示し，VTRから読み取る戦時中の生活についての視点を広げるしかけを行った。個人での気付きの書き出しの後にグループで共有し，個人による他の班への聞き取り活動を設定することなどにより，一人の気付きから学級全体の気付きを出し合い共有することができた。聞き取りの手順としては，次頁図21に示すお助けカードの提示を行った。



図20 社会科の既習事項の活用

ポケモンゲット

1. 『発表』の人が『ポケストップ』役になる。残りの人は、トレーナー役になる。
2. トレーナーは、他のポケストップに行き、ポケモン（情報）をゲット
3. 【ゲットの仕方】
トレーナーは、ポケストップの人に、「どんなポケモン（情報）が出たか」質問する。
4. ポケストップは、聞かれたことのみ、正直に答える。
5. トレーナーは、ポケモン（情報）を持ち帰り、情報交換をする。

お助けカード「トレーナー」

『ポケモンゲット』トレーナー

トレーナーは、他のエリアに行き、順番に質問し、たくさん情報を引き出します。そして、自分たちにはない新種のポケモン情報をゲットしましょう。トレーナーがしっかりと質問をしないと、相手のポケストップは何も話してくれません。まずは、大きなことから順に質問していきましょう。ポケモンが手に入るかどうかは、あなたたちにかかっています。頑張ってください。

① 気づきの中には、どんな項目がありましたか？

② 〇〇（真目名）の中には、具体的にどんなものがありましたか？

③ ※出てきた項目、すべてについて一つずつ聞く。

④ 疑問は、どんな項目がありましたか？

⑤ ※同じように、出てきた項目すべてについて一つずつ聞く。

⑥ 説明を聞いていて、よくわからなかったことがあれば、どんどん聞く。

図21 国語科との関連「聞くことに関する指導事項」

5 大竹市立小方中学校 第1学年

【育成する資質・能力】

- 課題発見能力、思考力・表現力
- 自己の生き方を考える、主体性
- コミュニケーション能力、自らへの自信

単元名「働く人から学ぶ」

★教科等との関連

- 特別活動 学ぶことと働くことの意義、主体的な進路の選択と将来設計
- 社会科 地域に果たす産業の役割やその動向について考える。
- 音楽科 郷土の伝統音楽から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞する。
- 家庭科 地域の食文化について理解する。
- 数学科 目的に応じて資料を収集した結果を表やグラフに整理し、その資料の傾向を読み取る。
- 国語科
 - ・集めた材料を分類するなどして整理して文章を構成する。
 - ・図や表を用いた説明や記録の文章を書く。
 - ・日常生活の話題について報告や紹介をし、それらを聞いて質問や助言、対話や討論などを行う。
 - ・伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠にして書く。
- 技術・家庭科（技術分野）
 - 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考える。

小方中学校第1学年では、小学校の既習事項と関連させ、地域とのつながりを基に、自分なりの課題を見だし、課題解決に向けて生徒同士や地域の方との協働的な取組を通して身に付けた資質・能力を生かし、「働く人」を題材に学習活動を展開していく。その中で、多様な教科との関連を図っている。

特別活動との関連として、単元の導入時には、職業選択について教師自身が大学生の頃に制作したスーツや教師として就職した頃の「初任者研修の記録簿」等の具体物を提示することにより、生徒の興味・関心を引き出す手立てがされた。

その後、「人は何のために働くのか」について、自分の考えをワークシートに書き込み、八つの職業の種類から、一人一人の優先順位を決め、グループで次頁図22に示すワークシートに理由付けをしながらシールを貼る活動を行った。シールに記名するこ

とにより、教師による一人一人の価値観を見取ることができ、評価に生かすことができる。また、シールを貼ることににより、自分自身の価値のメタ認知や各自の職業に対する価値観の相違が明確になる。

各班での共有後、学級全体の共有として、図23のように班ごとのワークシートを掲示した。

班	項目	シール欄
①	自分の能力を発揮できる	人、人、人、人、人
②	美しいものを造る	
③	人の役に立つ	人、人、人、人、人
④	他からの束縛を受けずに自分でやる	人、人、人、人、人
⑤	新しいものを創り出す	
⑥	お金をたくさん稼ぎ、よい生活を送る	
⑦	身体を動かす機会をもてる	人、人、人、人、人
⑧	ワクワクするような体験ができる	人、人、人、人、人

図22 職業の種類による働く価値



図23 学級全体での価値観の共有

各班で活用したワークシートをそのまま掲示することで、数の大小の大まかな把握をすることができた。しかし、明確に傾向を判断するデータになっていない。このことから、各班のワークシートをそのまま活用し、学級全体の傾向についてデータから読み取るためには、数学科との関連が有効であると考え。数学科の指導内容「目的に応じて資料を収集した結果を表やグラフに整理し、その資料の傾向

を読み取る」を活用する。まず各班で、ワークシートのシール欄に一人一人のシールを貼る。その後、全体像を明らかにするために、黒板には項目のみを掲示し、各班のシール欄を項目の横に並べて貼る。このことにより、全ての班のワークシートを掲示すると、横向きの棒グラフが完成する等の改善が考えられる。

このように、個での学びをグループで生かし、グループの学びを学級全体で交流するためには、短時間で思考に沿った活動になることが必要になってくる。多くの学校では、協働的に学習する時間を確保することにより、必要な学びを保障する時間の確保が難しくなるという意見を聞くことから、単元全体や1単位時間の授業の見通し（イメージ）をもつことが重要であると考え。また、教材作りの時間の短縮も同時に図る必要がある。

全体共有後、授業の終末には、T2による職業観についての講話が行われた。教師が真摯に自分自身の職業観を語ることににより、生徒は職業人としての先輩である教師の存在を感じることができた。表11に生徒の振り返りの記述を紹介する。

表11 生徒の振り返りの記述

- ◎先生は、「テニスとかかわりながら仕事がしたい」と思って教師になったことや同じ職業についてもそれぞれの目標や夢をもって仕事をしていることを初めて知りました。僕は、夢がないけど、いろいろな方法で仕事は決められるから、仕事の数だけの選択肢だけでなく、夢や目標の数だけ選択肢があると思いました。
- ◎職業に就くと家の人は、仕事なんてもう辞めたいと言っているけれど、本当はとても楽しいことがあって悪いことばかりではないことが分かりました。先生の話聞いて、これからなりたい仕事は変わるかもしれないけど、大人になった先生方も目指すものがあつたらたどり着いているんだなと思いました。
- ◎みんな一番に優先することは違うけれど、どれも大切に、無くてはならない力だと思いました。私は、①から⑧の中に無かったけれど、積極的にできるようになることを優先させたいと思いました。班で話し合っている時、みんな人の役に立ちたいと思って働くということが分かりました。
- ◎授業を受けて、保育士になりたいと思う気持ちが高まりました。自分の能力を発揮して人の役に立ちたいと思います。そして、働いている誰かがいるから、今の私がいると思いました。

VI 分析と考察

研究協力校を対象として、2種類のアンケート調査を行い、本研究の成果を検証した。

【ガイドブックの内容に関するアンケート】

○対象者 理論研修受講者
(小学校22人, 中学校12人 計34人)

○内容

ガイドブックの試案を活用し、授業実践に関わるガイドブックの有効性について4段階尺度法及び自由記述による調査

【授業実践に係るアンケート】

○対象者 総合的な学習の時間の授業者
(小学校13人, 中学校5人 計18人)

○内容

一年次のパイロット教員対象実態調査アンケートを用いた調査

1 ガイドブックの内容について

ガイドブックの内容に係る項目ごとの有効性について、研究協力校対象アンケート調査の結果を図24に示す。

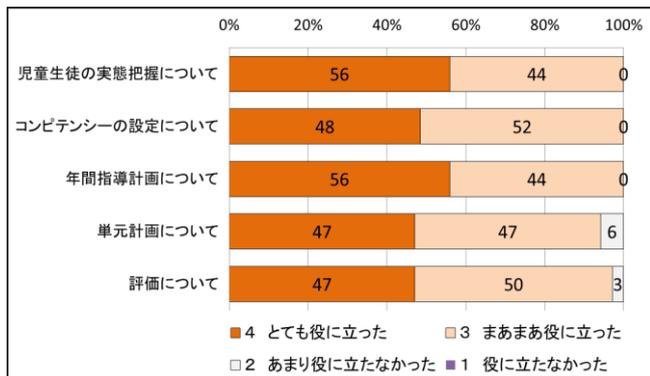


図24 ガイドブックの有効性に関するアンケート結果

5項目の全てにおいて、肯定率が90%を超えており、授業実践を通してガイドブックの有効性が検証されたといえる。

表12は、ガイドブックの内容について、授業実践者から挙げられた成果と課題についての自由記述を項目ごとにまとめたものである。主な課題としては、児童生徒の日常知や興味・関心の度合い等の把握が難しいこと、年間指導計画を常に意識し教科等との関連に基づき改善を加えることなどが挙げられており、ガイドブックのいくつかの内容については、更に改善する必要があることが分かった。

表12 ガイドブックの内容に関する自由記述

実態把握	成果	◎児童の興味・関心の把握を事前に指導者が知ることで思考の流れを想定し、学習課題を設定しやすくなった。 ◎探究的なスキルを身に付けていない実態が明確になったことで指導に生かされた。
	課題	●学校で学ぶ知識だけでなく、生活経験を考えていく必要がある。児童の興味・関心の度合いも把握しておく必要がある。
コンピテンシーの設定	成果	◎児童生徒の将来の姿を具体的に考える事で、児童生徒にとって何が必要か、何を身に付けさせなければならないかを考えることができた。
	課題	●児童の実態だけでなく、学校目標と関連させ児童に育成していきたい資質・能力に集約していく必要がある。
テーマに関する教材研究	成果	◎地域の「ひと・もの・こと」を考えることで、特色のある学校づくりも行うことができ、よさを再発見できた。他の教員の経験やアイデアを聞くことで、学習対象が増え、地域の様々な方との出会いができた。 ◎年齢、教科が違うと様々な意見が出るので、広がりやすいと思った。総合は学年で行うことが多いので、学習対象・学習事項の共有の仕方を学ぶことで、全員が同じゴールイメージを持って取り組むことができると思った。
	課題	●単元づくりを行う上で、小中の連携をもう少し密にした形で行えるとよい。例えば、「小学校の学びが～だから、中学校では、同じものを扱うとしてもこの視点で単元が作れる」とか「中学校で～を学ぶことになっているのであれば、小学校では、○○について学習しておいた方がいいね。」等、具体的な整理が必要であると考えた。
年間指導計画	成果	◎教科、他領域との関連について後から気付くことが多かった。年間を通して意図的に関連させるためには、年間指導計画は大事だと思った。 ◎特定の教科だけでなく、様々な教科との関連を考えることで、学習活動に対する考えが広がった。
	課題	●授業実践する中で、後から教科との関連について気付くことがある。年度の終わりに次年度の計画を立てる等、常に改善していくことが必要だと思った。
単元計画・評価計画	成果	◎評価規準が曖昧になっていたが、規準を明確にもって授業に臨めるようになった。 ◎単元全体を見通してゴールまでの学習内容、評価規準、評価方法を設定しておくことで、単元途中で軌道修正を行うことができた。
	課題	●単元全体の計画を年間指導計画と連動させ、時間的な余裕をもち、柔軟な計画を立てられるとよいと思った。

2 授業実践に係る内容について

研究協力校対象アンケートの結果から、授業改善の実際について分析する。

なお、本アンケートから明らかになった課題を踏まえてガイドブックの更なる改善を行った。

(1) 実態把握について

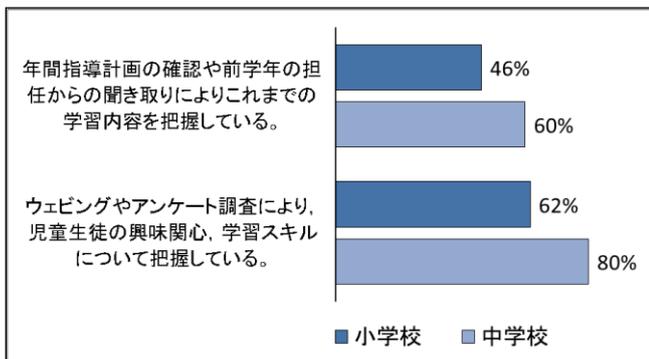


図25 実態把握について

図25から、小学校、中学校とも、ウェビングやアンケート調査を活用した児童生徒の実態把握については、多くの教師が行っている一方で、既習事項の把握が十分ではない実態がうかがえる。

このことから、ガイドブックを改善する視点として、学年間の連携を意識できる内容を含めることが必要である。

(2) コンピテンシーの設定について

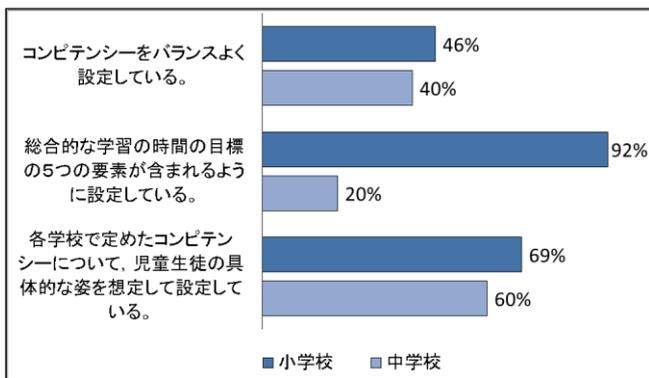


図26 コンピテンシーの設定について

図26から、小学校、中学校とも、各学校では児童生徒の具体的な姿を想定してコンピテンシーを設定しているといえる。しかし、全体的に小学校に比べて中学校の取組が進んでいないことがうかがえる。特に、中学校では、総合的な学習の時間の目標の5つの要素を意識したコンピテンシーの設定になっていないことは大きな課題である。

(3) 年間指導計画について

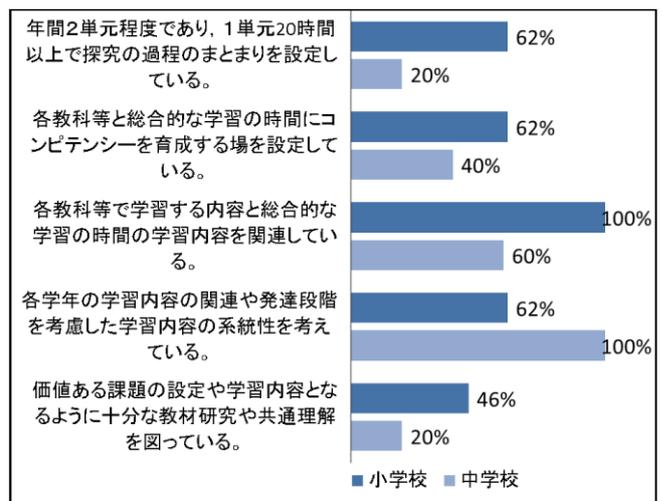


図27 年間指導計画について

図27から、小学校の「各教科等で学習する内容と総合的な学習の時間の学習内容を関連している。」及び中学校の「各学年の学習内容の関連や発達段階を考慮した学習内容の系統性が意識できている。」がいずれも全ての教師が肯定的な回答をしている。これは、小学校、中学校の教科指導の担当方法の違いと関連していると考えられる。このことから、単学年と全学年の二つの視点から年間指導計画を作成すれば総合的な学習の時間の系統性や、教科等との関連を生かした指導に改善できると思われる。

このことから、ガイドブックを改善する視点として、教科等との関連及び各学年の系統性について、校種の特徴を生かした記述に変更する必要がある。

(4) 単元計画について

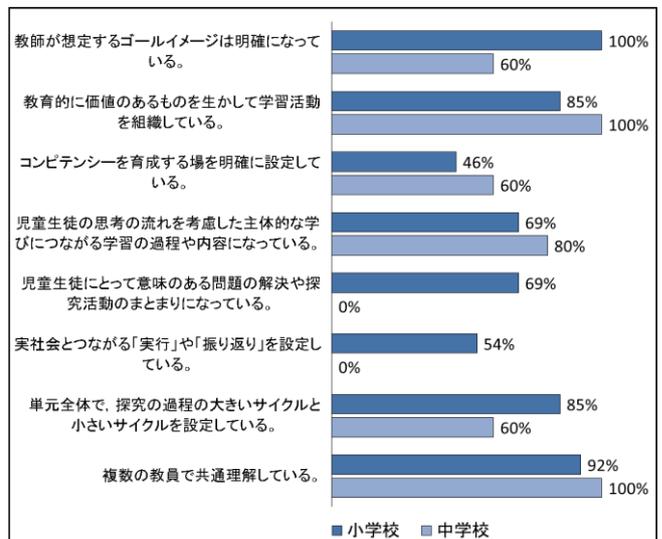


図28 単元計画について

図28から、小学校、中学校とも、全体的に高い肯定率になっていることから、単元計画については各学校の取組が進んでいることがうかがえる。

しかし、中学校では、「児童生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりになっている。」「実社会とのつながる『実行』や『振り返り』を設定している。」の質問に対して、肯定率が共に0%となっており、「課題発見・解決学習」を、学校内で完結させるのではなく、地域の多様な人材を活用する等、社会とのつながりを意識した単元開発を行うなどの工夫が必要であると考えられる。

(5) 評価について

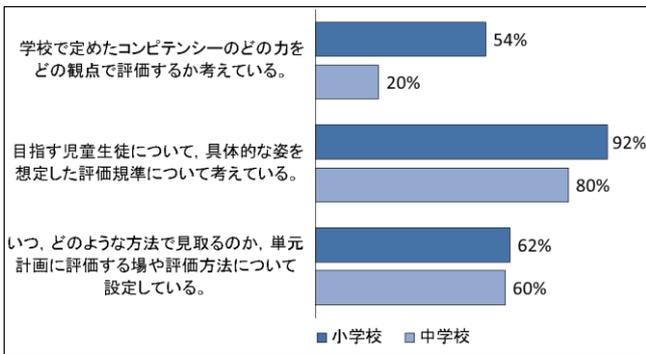


図29 評価計画について

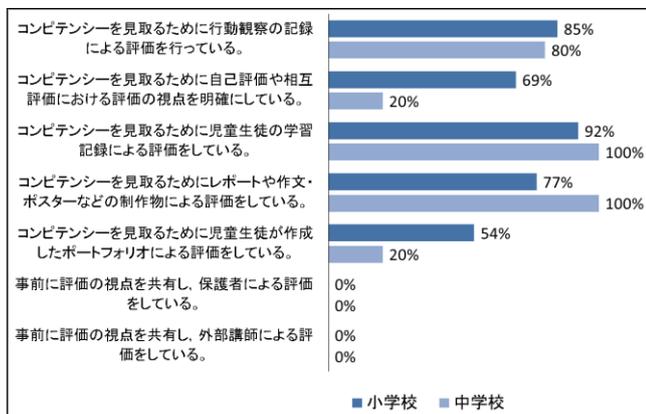


図30 評価方法

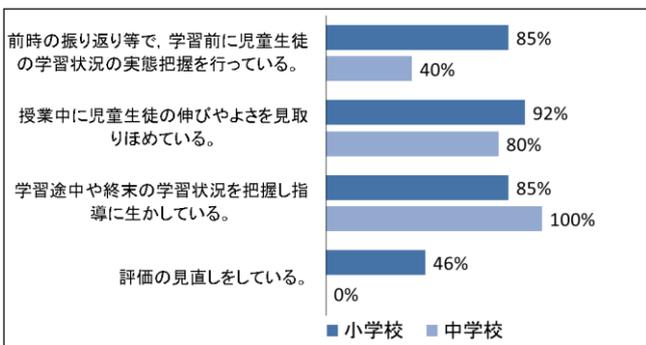


図31 評価の工夫

図29から、小学校、中学校とも、評価規準の作成に当たっては、目指す児童生徒について、具体的な姿を想定して行っていることが分かる。また、図30及び図31から、多様な評価方法を取り入れ、評価の工夫に取り組んでいることが分かる。

しかし、図30から、小学校、中学校とも、保護者や外部講師による評価が全く取り入れられておらず、また、図31から、評価の見直しも十分に行われていないなど、課題もみられる。

このことから、ガイドブックには、総合的な学習の時間を中心として、実社会とのつながりを設定し、評価計画の中に保護者や外部講師による評価を位置付けることや単元全体の学びを把握するための、ポートフォリオの活用や自己評価、相互評価についての記述が必要である。また、児童生徒の実態を適宜把握し、コンピテンシーの定義や評価規準、評価基準の見直しを進めていくことの重要性を記す必要がある。

VII 研究のまとめ

1 研究の成果

- ガイドブックの内容について、研究協力校対象アンケート調査から、その有効性や課題を明らかにすることができた。
- ガイドブックを活用した実践事例を提示することができた。
- 「児童生徒の実態把握や教材研究」「コンピテンシーの定義の設定」「コンピテンシーの定義の共有」「評価計画、評価規準、評価方法の工夫」「学習内容に係る教科等との関連」の五つについて成果がみられた。
- 平成27年度に試案として作成したガイドブックを、今年度に明らかになった課題を基に改善することができた。

2 今後の課題

(1) 教科等との関連について

次の3点が特に課題として挙げられる。

- 総合的な学習の時間と教科等との関連について、内容面の関連を図る取組に比べて、コンピテンシーの育成に関する取組が十分に進んでいない。
- 小学校では6年間の系統性が十分に意識されていない。
- 中学校では教科間で取組が十分に共有されて

いない。

これらのことから、ガイドブックには年間指導計画における教科等との関連や、単元計画におけるコンピテンシーを育成する具体的な場の設定を強調する必要がある。

(2) 評価について

次の3点が課題として挙げられる。

- 単元計画の中に、コンピテンシーを育成する場が明確に設定されていない。
- 単元計画の中に、実社会との関連が意識されていないため、保護者や外部講師による評価が十分ではない。
- 評価の見直しがされていない。

これらのことから、ポートフォリオを活用するなどして、授業実践を通して形成的評価や総括的評価を充実させる必要がある。また、ガイドブックに好事例を掲載することで、各学校の自律的な授業改善に生かす必要がある。

おわりに

平成27年度よりアクション・プランが実施され、これまでパイロット教員や担当チューター、総合的な学習の時間担当指導主事、そして、研究協力校の教職員の方と共に試行錯誤を繰り返し、そして、新たな授業の創造を行ってきた。平成29年度は、「課題発見・解決学習」が全県展開される前年に当たる。県内の多くの学校で「課題発見・解決学習」への取組が行われると思われる。本研究の成果物が多くの先生方のガイド役となり、児童生徒の主体的な学びへとつながることを心より願い、そして、各校の取組が新たな授業の創造へとつながることを願っている。

本研究を進めるに当たり、御指導・御助言をいただいた広島大学大学院教育学研究科朝倉淳教授、また、研究協力校として授業実践等で御協力いただいた呉市立原小学校、呉市立警固屋小学校、江田島市立大古小学校、呉市立警固屋中学校、大竹市立小方中学校の教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- 文部科学省（平成28年）：「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめ」
- 文部科学省（平成28年）：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
- 広島県教育委員会（平成26年）：「広島版『学びの変革』アク

ション・プラン」

- 鈴木敏恵（2012）：『課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法』教育出版
- 田村知子（2014）：『カリキュラムマネジメントー学力向上へのアクションプランー』日本標準
- 新潟県上越市教育委員会（平成18年）：視覚的カリキュラム
- 朝倉淳（2008）：『子どもの気付きを拡大・深化させる生活科の授業原理』風間書房
- 文部科学省国立教育政策研究所（平成27年）：スタートカリキュラムスタートブック
- 石井英真（2015）：『今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影ー』日本標準
- 奈須正裕（2013）：『子どもと創る授業 学びを見とる目、深める目』ぎょうせい
- 奈須正裕・諸富祥彦（2011）：『答えなき時代を生き抜く子どもの育成』図書文化社
- 奈須正裕・久野弘幸・齊藤一弥（平成26年）：『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てるーコンピテンシー・ベースの授業づくり』ぎょうせい
- 奈須正裕・江間史明・鶴田清司・齊藤一弥・丹沢哲郎・池田真（2015）：『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり』図書文化
- 鹿毛雅治・奈須正裕・藤岡完治・森敏昭・秋田喜代美・戸田有一：『学ぶこと教えること』金子書房
- 鹿毛雅治（2013）：『学習意欲の理論動機づけの教育心理学』金子書房
- 今井むつみ・野島久雄・岡田浩之（2013）：『新人が学ぶということー認知学習論からの視点』北樹出版
- 今井むつみ（2016）：『学びとは何かー（探究人）になるために』岩波新書
- 西岡加名恵・石井英真・田中耕治（2015）：『新しい教育評価入門一人を育てる評価のためにー』有斐閣
- 西岡加名恵（2008）：『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書
- 田村学・黒上晴夫（2013）：『教育技術 MOOK 考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館
- 関西大学初等部（2014）：『関大初等部式思考力育成法ガイドブック』さくら社
- 塩谷京子（2016）：『すぐ実践できる情報スキル50』ミネルヴァ書房
- 桑田てるみ（2012）：『6プロセスで学ぶ中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』全国学校図書館協議会
- 桑田てるみ（2016）：『思考を深める探究学習 アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』全国学校図書館協議会
- 堀公俊（2004）：『ファシリテーション入門』日本経済新聞出

版社

国立教育政策研究所(平成27年):「資質能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～」

文部科学省(平成20年):『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社

文部科学省(平成20年):『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』教育出版

文部科学省(平成22年):『今,求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)』教育出版

文部科学省(平成22年):『今,求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)』教育図書

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成23年):『評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』教育出版

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成23年):『評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 総合的な学習の時間】』教育出版

福田陽子・田中宏憲・白井良枝・田崎志緒(平成26年):「総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方—広島県の実態調査における現状と課題を踏まえて—」『研究紀要 第41号』広島県立教育センター

福田陽子・白井良枝・西村靖子(平成27年):「総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方(二年次)—小学校,中学校における「単元改善シート」の活用を通して—」『研究紀要 第42号』広島県立教育センター

福田陽子(平成28年):「広島版『学びの変革』アクション・プラン総合的な学習の時間におけるコンピテンシーの育成を目指した指導と評価の在り方—「課題発見・解決学習」における指導と評価を通して—」『研究紀要 第43号』広島県立教育センター

青本眞二・大和浩子・湯原玲子・下高呂元成(平成26年):「学校における授業研究の質的向上に関する研究—授業研究充実のためのハンドブック作成に向けて—」『研究紀要 第41号』広島県立教育センター